

仙台白百合女子大学

人間学研究センター

紀 要

BULLETIN OF
Research Centre for
Anthropology



仙台白百合女子大学

Sendai Shirayuri Women's College

Vol. 2. 2024

目次

【論文】

「保育者の職業意識尺度」の信頼性と妥当性の検討

An examination of the reliability and validity of the “Scale of professional attitudes of
childcare worker” 結城 裕也 1

スピリチュアリティと認知行動的セルフモニタリングに関する研究

—宗教観構造の因子分析（主因子法 Promax 回転）による再検討— 山崎 洋史 11

個に内在するキリストの検討

——キリスト教的人間学の基礎についての試論 宮崎 正美 20

【研究ノート】

大学生の食生活実態調査に見られた米離れについて 佐々木 裕子 33

【研究助成報告書】

エクオール産生菌と若年女性の過敏性腸症候群との関連性に関する研究

..... 相澤 恵美子 39

糖尿病性腎症におけるサルコペニアと栄養の関連 菅原 詩緒理 41

論文

「保育者の職業意識尺度」の信頼性と妥当性の検討

An examination of the reliability and validity of the “Scale of professional attitudes of childcare worker”

結城 裕也	Hiroya YUKI	仙台白百合女子大学人間学部心理福祉学科
藤村 敦	Tsutomu FUJIMURA	函館大谷短期大学 こども学科
柴田 亮	Makoto SHIBATA	AIAI ChildCare 株式会社 AIAI NURSERY 第二東池袋

要約

本研究の目的は、保育者の職業意識尺度を開発し、その信頼性と妥当性を検証することであった。現役保育者(保育士, 幼稚園教諭, 保育教諭)400名を調査対象者とし、結城他(2023)から得られた28項目を用いて構造方程式モデリングによる確認的因子分析(2因子:「寄り添い」因子, 「セルフ・コントロール」因子)を行なった。分析の結果、モデルの適合度が一定の基準を満たしていたことから、2因子モデルを採用した。

その後、尺度の収束的妥当性を検討するため、本尺度と看護師の職務満足度尺度、看護師の仕事意欲測定尺度および日本語版職業コミットメント尺度の相関係数を算出した。その結果、保育者の職業意識尺度は全ての既存尺度と中程度の正の相関が確認されたため、本尺度の妥当性が確認された。また、尺度の内的一貫性を確認するため、Cronbachの α 係数とMacDonaldの ω 係数を算出したところ、十分な値を示したことから、本尺度の信頼性が確認された。

キーワード: 保育者, 職業意識, 信頼性, 妥当性

問題と目的

デジタル大辞泉によると、職業意識とは「自分の職業に対してもつ意識や自覚。また、その職業の人に特有の見方・考え方」をいう。単に職業意識という場合には、「職業に対するイメージ」として扱われたり、働くことに対してどのような考えを持っているかといった「就業イメージ」として扱われるケースも多い。

一方で、本研究で扱う職業意識は、いわゆる「意識が高い」、「意識が低い」と形容されるような「従事する仕事において、自らの成長と

それに関連する事柄に対して注意を払う程度のこと」と操作的に定義している。具体的には、「職業意識が高い者」は常に自らの仕事の中で成長を目指し、それに関連する事柄に対して注意を払うが、「職業意識が低い者」は仕事の中で自らの成長とそれに伴う事柄に対してほとんど注意を向けないと想定している。

職業意識に関する先行研究は、大学生の職業意識がどのような過程を経て形成されていくのかといった、職業意識の発達に関するもの(小島・篠原, 1985)、看護学生が職業社

会化を促進させる過程を職業志向性から検討したもの(長谷川, 2012)など、多岐にわたっている。特に、看護師、看護学生といった専門職あるいは将来専門職に携わる立場の職業意識を扱う研究が比較的多く見られている(e.g., 長谷川, 2012)。

看護師はその仕事の特性上、高い職業倫理観や職業意識をもつことが必要とされるが、看護師と同様に専門職として高い職業倫理観、職業意識を求められる職業に保育者(保育士、幼稚園教諭、保育教諭)がある。

全国保育士会倫理綱領(2003)では、専門職としての保育士・保育教諭が、どのような視点で保育を行うかという基本姿勢が8つ示されている(「子どもの最善の利益の尊重」、「子どもの発達保障」、「保護者との協力」、「プライバシーの保護」、「チームワークと自己評価」、「利用者の代弁」、「地域の子育て支援」、「専門職としての責務」)。この倫理綱領に従えば、保育士は子どもと関わるだけでなく、保護者の相談に乗ったり、同僚と協力しながら業務を遂行しなければならない。したがって、保育の知識や子どもを大切に思う気持ちを持つだけでなく、協調性や責任感、コミュニケーション能力などの力も身につけなければならないため、高い職業意識が求められることになる。

そのような背景の中で、本研究では職業意識の高さは近年増加している保育者不足に関わるという立場をとる。保育者不足が声高に叫ばれるようになって久しいが、厚生労働省(2022)の統計によると、保育士全体の離職率は9.3%であり、この数字は約10人に1人の保育士が離職していることを示している。一方、2017年の全産業平均離職率は14.9%であるため、必ずしも保育士の離職率が高いわ

けではない。しかし、全体の保育士のうち経験年数2年未満の離職率は15.5%、2~4年未満の離職率は13.3%、4~6年未満の離職率の割合は11.1%にのぼる。つまり、保育者となってから6年以内に離職する者は約4割にも及んでいる。このことから、経験の浅い保育者の離職率が特に高いことがわかる。藤村他(2021)は、保護者からの苦情に対する保育者のストレスという観点から、保育者にインタビュー調査を行なった。保護者から苦情を受けた際に保育者が適切に苦情対応できなかった理由を、保育者自身は自らのスキル不足に帰属する傾向があることを明らかにしている。この傾向は、特に保育者としての経験が浅い若手で見られ、保育者としての自信を失い離職につながる可能性を指摘している。しかし一方で、正しく現状のスキルを認識し、自らのスキル不足を痛感したからこそ研鑽を積んでより良い保育者を目指すことも考えられる。本研究では、スキル不足が保育者の離職につながるか否かを左右する一つの要因として職業意識を想定している。つまり、保護者からの苦情を適切に対処できなかった場合、保育者としての職業意識が低い保育者は自らのスキル不足を痛感し離職に向かう可能性があるが、一方で保育者としての職業意識が高い保育者は、自らのスキル不足を痛感しつつも「もっと努力しなければならない」と奮起し就業が継続されると予測している。したがって、今後、保育者の職業意識が就業の継続にどのような影響を及ぼすのかを検討するためには、保育者の職業意識尺度を開発する必要がある。

職業意識に関連する概念として、職業コミットメントが挙げられる。コミットメントとは、本来は責任を持って引き受けるという意味を持ち、

現在では主に職業場面で使われることが多い。具体的には働く個人の帰属意識を表す概念のことを指し、このコミットメントの概念を職業コミットメントとして応用し、Occupational Commitment Scale(以下、OCSと略記)を作成したのがMeyer, Allen, & Smith(1993)である。Meyerらによると、職業コミットメントは組織や職業への心理的態度のことを指し、仕事に対する愛着や好意的感情のような「情緒的(affective)要素」、義務感や忠誠心のような「規範的(normative)要素」、辞めると失うものが大きい「継続的(continuance)要素」の3要素から構成されるとしている。そして、この職業コミットメントが高いほど職務満足感が高く、バーンアウトや離職意向が低くなることが示されており(Lee, Carswell, & Allen, 2000), その他の研究でも同様の結果がみられている(e.g., 佐藤ら, 2015)。

このように、職業コミットメントに関する研究は増加しつつあるものの、その多くが看護師や看護学生を対象にしたものである(e.g., Meyer & Smith, 1993)。保育者も看護師と同様に対人援助従業者であるが、保育者の職業コミットメントに関する研究は保育士の専門性とキャリアコミットメントについて論じたものなどに限られている(e.g., 太田・阿部, 2017)。また、OCSは職業および職務に対する包括的なコミットメントを測定する上では妥当な尺度であるが、具体的な職務内容に関する項目は含まれておらず、本研究で想定している「職業意識」とは必ずしも同一概念を扱ってはいないと。加えて、本研究で扱う「職業意識」の高さは、自分の理想とする保育者像を投影したものであると考えることもできるため、その意味では、職業コミットメントに比べて

精神的健康や離職意向により直結しやすい概念であると考ええる。

「保育者の職業意識」を測定するための尺度は、筆者の知る限りこれまで開発されていない。類似の尺度として佐野・山口(2005)の「看護師の仕事意欲測定尺度」があるが、看護師に限定されていたり、仕事に対する「意欲」と「意識」に関する項目が混在している。「意欲」は動機づけに直接関わる概念であり、比較的変動が大きいものであるのに対し、「意識」はどのように行動すべきか考えたり、思想や理念を理解している状態を指し、比較的変動の少ない安定した概念であると考ええる。したがって、本研究では「意識」の方が職務に対する姿勢に強く関連する概念と捉え、職業意識に焦点を当てる。

結城他(2022)では保育者の職業意識についての考えを自由記述法で尋ねた。この結果をカテゴライズし結城他(2023)で試作版を作成したが、本尺度の信頼性および妥当性は未だ検討されていない。そこで本研究では、保育者の職業意識尺度の信頼性、妥当性を検討することを目的とする。

方法

調査対象者

本研究では民間調査会社に業務委託し、Webによるアンケート調査を実施した。現在保育者として勤務している者を対象とし、400名から回答を得た(男性12名、女性388名;平均年齢38.71歳, $SD=11.00$)。なお、本研究で調査対象とする保育者とは、保育士、幼稚園教諭、保育教諭を指している。保育者の内訳は、保育士185名、幼稚園教諭141名、保育教諭74名であった。

調査内容

Web 調査の内容は、以下の項目・尺度で構成した。

デモグラフィック変数 まず、個人属性として、性別、年齢、現在の職種(保育士、幼稚園教諭、保育教諭)、現在の勤務先(保育園、幼稚園、認定こども園)、勤務形態(常勤、非常勤)、保育者としての勤続年数、勤務先での職位(役職なし、主任、副園長、園長、その他の役職)について回答を求めた。

保育者の職業意識尺度 結城他(2022)の 33 項目を使用した。本尺度は、寄り添い因子(23 項目)とセルフ・コントロール因子(10 項目)で構成されている。回答は、それぞれの項目に対してどの程度意識して保育(教育)をしているかについて、7 件法(1「まったく意識していない」、2「ほとんど意識していない」、3「あまり意識していない」、4「どちらでもない」、5「やや意識している」、6「かなり意識している」、7「非常に意識している」)で評定を求めた。

看護師の職務満足測定尺度 看護師の職務に対する満足感を測定するために撫養他(2014)によって開発された尺度である。本尺度は仕事に対する肯定的感情(11 項目)、上司からの適切な支援(6 項目)、働きやすい労働環境(6 項目)、職場での自らの存在意義(5 項目)の 4 因子合計 28 項目で構成されていた。なお、本尺度は看護師を対象にした尺度のため、質問項目の中で使用されている「看護」という文言は「保育(教育)」とし、「患者」は「子ども」に置き換えた。本研究においては、仕事に対する肯定的感情(11 項目)のうち「私は、患者が回復して行く過程に関われる看護の仕事に手応えを感じている」を除く 10 項目を使用した。回答は、それぞれの項目に対し

て保育(教育)者として働いていてどんな満足感を持っているかについて、5 件法(1「まったく当てはまらない」、2「あまり当てはまらない」、3「どちらでもない」、4「やや当てはまる」、5「非常に当てはまる」)で評定を求めた。

看護師の仕事意欲測定尺度 看護師の仕事に対する意欲を測定するために佐野・山口(2005)によって開発された尺度である。本尺度は、現在の仕事に向ける意欲と将来的な仕事に向ける意欲の 2 因子の合計 15 項目で構成されていた。なお、本尺度は看護師を対象にした尺度のため、質問項目の中に看護に関わる文言は「保育(教育)」に置き換えた。回答は、それぞれの項目に対して保育(教育)者として働いていてどんな満足感を持っているかについて、7 件法(1「まったくそうではない」、2「おおむねそうではない」、3「ややそうではない」、4「どちらともいえない」、5「ややそうだ」、6「おおむねそうだ」、7「全くそうだ」)で評定を求めた。

日本語版職業コミットメント尺度(日本語版 OCS) 看護師の職業コミットメントを測定するために Occupational Commitment Scale (Mayer *et al.*, 1993)を佐藤他(2015)が邦訳した日本語版 OCS を使用した。本尺度は、情緒的職業コミットメント(6 項目)、規範的職業コミットメント(6 項目)、功利的職業コミットメント(5 項目)の 3 因子合計 18 項目で構成されていた。なお、本尺度は看護師を対象にした尺度のため、質問項目の中に看護に関わる文言は「保育(教育)」に置き換えた。回答は、それぞれの項目に対して当てはまる程度を 5 件法(1「全くその通りではない」、2「ややその通りではない」、3「どちらともいえない」、4「ややその

通りだ」, 5「全くその通りだ」)で評定を求めた。

統計解析

統計解析として jamovi (Ver2.3.28) を使用した。

なお、確認的因子分析の基準は CFI>.90, RMSEA<.10 とした。また、内的整合性の基準は Cronbach の α 係数が.80 以上を十分な値であると判断した。なお、相関分析における相関係数の強さの基準は、 $.20 \leq |r| < .40$ を弱い相関、 $.40 \leq |r| < .70$ を中程度の相関、 $.70 \leq |r|$ を強い相関とした。

結果

回答者の属性

回答者の属性について、Table 1 に示した。

性別、年齢 調査対象者の性別および年齢は、男性が 12 名 (3.3%)、女性が 388 名 (97.0%) であり、全体として 20 代 (97 名, 24.3%)、30 代 (139 名, 34.8%)、40 代 (93 名, 23.3%)、50 代以上 (71 名, 17.8%) で、30 代が最も多かった。なお、年齢の平均値は 38.71 歳、標準偏差が 11.00 であった。

職種、勤務形態、職位、勤務年数 調査対象者の職種は、保育士が 185 名 (46.3%)、幼稚園教諭 141 名 (35.3%)、保育教諭 74 名 (18.5%) であった。なお、勤務する施設は、保育士が保育園、幼稚園教諭が幼稚園、保育教諭が認定こども園となっている。次に、勤務形態は、常勤が 309 名 (77.3%)、非常勤が 91 名 (22.8%) であった。そして、職位は、役職なしが 314 名 (78.5%)、主任が 50 名 (12.5%)、副園長が 7 名 (1.8%)、その他の役職 (主幹、クラスリーダー、乳児専門リーダー等) が 20 名 (5.0%) であった。また、勤務年数は、10 年未満が 170 名 (45.1%) で 10 年以上は 230 名

Table 1. 回答者の属性 (N=400)

		N	%
性別	男性	12	3.0
	女性	388	97.0
年齢	20代	97	24.3
	30代	139	34.8
	40代	93	23.3
	50代以上	71	17.8
	職種	保育士	185
	幼稚園教諭	141	35.3
	保育教諭	74	18.5
勤務形態	常勤	309	77.3
	非常勤	91	22.8
勤続年数 (通算)	1年未満	10	2.5
	1年~2年未満	13	3.3
	2年~3年未満	14	3.5
	3年~5年未満	40	10.0
	5年~7年未満	43	10.8
	7年~10年未満	60	15.0
	10年~15年未満	101	25.3
	15年~20年未満	50	12.5
	20年~30年未満	49	12.3
	30年以上	20	5.0
職位	役職なし	314	78.5
	主任	50	12.5
	副園長	7	1.8
	園長	9	2.3
	その他の役職	20	5.0

(54.9%) であった。最も多かったのは 10 年~15 年未満の 101 名 (25.3%) であった。

項目分析

保育者の職業意識尺度の 33 項目に対して、項目ごとに平均値、標準偏差を算出し、天井効果 (平均値+標準偏差) と床効果 (平均-標準偏差) が見られるかを確認した。その結果、5 項目で天井効果が見られた。また、I-T 相関分析により、各項目と尺度の合計得点の相関係数を算出したところ、すべての項目で中程度以上の正の相関が示された ($r = .44 \sim .83$)。以上のことから、保育者の職業意識尺度の 33 項目から天井効果が見られた 5 項目を除いた 28 項目を分析対象とした。

保育者の職業意識尺度の因子構造の検討

構造方程式モデリングによる確認的因子分析を行なった。この際、寄り添い因子とセルフ・コントロール因子の2因子を想定し、残差共分散は想定しない分析モデルを構成した。なお、母数の推定には最尤法を用いた (Table 2)。

分析の結果、 $\chi^2(349)=1280$ ($p < .001$), CFI=.896, RMSEA=.082, SRMR=.042 であった。RMSEA の値が若干基準値を超えていたものの、CFI が基準値を満たしていたことからこのモデルの適合度はある許容される範囲と判断し採用した。

各尺度の内的整合性の検討

各尺度の内的整合性を検討するために Cronbach の α 係数および McDonald の ω 係数を算出した。併せて各尺度の記述統計量を算出した (Table 3)。保育者の職業意識尺度全体では $\alpha = .97 / \omega = .97$, 寄り添いでは $\alpha = .97 / \omega = .97$, セルフ・コントロールでは $\alpha = .89 / \omega = .90$, 看護師の職務満足では $\alpha = .88 / \omega = .89$, 看護師の仕事意欲では $\alpha = .97 / \omega = .97$, 日本語版 OCS では $\alpha = .85 / \omega = .86$ であり、どの尺度においても十分な内的整合性が確認された。

Table 2. 保育者の職業意識尺度の2因子構造の確認的因子分析

項目	因子負荷量		M	SD
	F1	F2		
F1. 寄り添い ($\alpha=.97, M=5.79, SD=1.02$)				
25. 一人ひとりの子どもから話を聞く。	.84		5.85	1.02
30. 子どもの気持ちに寄り添い、子どもの最善の利益を考慮し保育 (教育) する。	.84		5.83	1.11
17. すべての子どもが楽しく落ち着いて過ごせるよう見守る。	.84		5.86	0.99
24. 子どもの立場に立って考えるように心がける。	.83		5.80	0.81
33. 一人ひとりの個性をできるだけ詳しく把握して、個々に合わせた対応をする。	.83		5.87	1.01
21. 子ども一人ひとりが幸せに、楽しく園生活を送れるように努力する。	.82		6.03	0.80
16. 常に一人ひとりの子どもの視点に立つように心がける。	.82		5.70	0.80
13. いけないことについては言葉を選んで注意する。	.79		5.75	1.06
32. 子どもの気持ちや話をすべて聞いてから物事を判断する。	.79		5.78	1.08
14. 子どもの言動に対して理由も聞かずに感情的に怒らない。	.78		5.83	1.06
10. 個々の子どもの成長に合わせて保育・教育をおこなう。	.78		5.95	1.00
20. 子どもの成長を見守りながら悪いことや良いことのけじめを教える。	.76		5.99	0.96
3. 保育者として子どもの気持ちや成長を第一に考え、ぶれずに対応する。	.75		5.76	1.08
9. 子どもの成長を見守りながら家庭支援をおこない、安全に過ごせるように気を配る。	.73		5.72	1.15
4. 通常の仕事に加えて子どもの成長のために試行錯誤する。	.73		5.62	1.08
2. 一人ひとりの子どもの様子を理解した上で、機嫌の良し悪しも見て行動する。	.72		5.84	1.06
12. 保護者に対して専門知識を含めながら話をし、寄り添う言葉がけをする。	.70		5.52	1.18
1. 子どもの成長を見極め、いろいろな物 (道具、遊具等) を使わせる。	.67		5.57	1.10
F2. セルフ・コントロール ($\alpha=.89, M=5.53, SD=1.15$)				
28. 集団で保育 (教育) をしながらも一人ずつ子どもをよく見る。	.83		5.89	1.03
18. 子どもの心情を的確に捉え、子どもの気持ちを最優先に考える。	.83		5.70	1.03
23. 一人ひとりの理解度に応じて対応する。	.78		5.79	0.98
27. どんな家庭環境の子どもに対しても平等に接する。	.76		5.68	1.12
15. どの子どもに対しても同じように接する。	.76		5.71	1.08
26. 叱られた子どもの気持ちになって叱る。	.69		5.28	1.20
31. 保護者と友達感覚で対応しない。	.62		5.75	1.18
6. 自分自身 (保育者) の気持ちを優先しない。	.59		5.37	1.21
5. 保護者に毅然とした態度で対応する。	.55		5.11	1.26
22. 自分の仕事が終わっても園のことを考えて仕事をする。	.42		4.99	1.36
因子間相関	F1	F2		
	F2	.89	-	

Table 3. 各尺度の記述統計量と信頼性係数

	<i>M</i>	<i>SD</i>	Min.	Max.	Cronbach's α	McDonald's ω
保育者の職業意識尺度	189.0	26.6	46	230	.97	.97
寄り添い	104.0	15.0	30	126	.97	.97
セルフ・コントロール	55.3	8.2	11	70	.89	.90
看護師の職務満足	36.9	6.7	15	50	.88	.89
看護師の仕事意欲	77.0	17.3	16	104	.97	.97
日本語版OCS	60.2	9.0	34	90	.85	.86

Table 4. 保育者の職業意識尺度と各尺度の相関係数

	保育者の職業意識			寄り添い			セルフ・コントロール		
	<i>r</i>	95%CI	<i>p</i>	<i>r</i>	95%CI	<i>p</i>	<i>r</i>	95%CI	<i>p</i>
看護師の職務満足	.54	.47—.61	.00	.55	.48—.62	.00	.48	.40—.55	.00
看護師の仕事意欲	.56	.48—.62	.00	.56	.49—.62	.00	.50	.43—.57	.00
日本語版OCS	.44	.36—.51	.00	.44	.36—.51	.00	.39	.31—.47	.00

収束的妥当性の検討

保育者の職業意識尺度の収束的妥当性を確認するため、各尺度との相関分析を行った。Parson の積率相関係数および 95%信頼区間を算出した (Table 4)。分析の結果、保育者の職業意識と看護師の職務満足 ($r = .54$, 95%CI [.47, .61]), 看護師の仕事意欲 ($r = .56$, 95%CI [.48, .62]), 日本語版 OCS ($r = .44$, 95%CI [.36, .51]) の間に有意な正の相関が見られた。また、寄り添いと看護師の職務満足 ($r = .55$, 95%CI [.48, .62]), 看護師の仕事意欲 ($r = .56$, 95%CI [.49, .62]), 日本語版 OCS ($r = .44$, 95%CI [.36, .51]) の間に有意な正の相関が見られた。そして、セルフ・コントロールと看護師の職務満足 ($r = .48$, 95%CI [.40, .55]), 看護師の仕事意欲 ($r = .50$, 95%CI [.43, .57]), 日本語版 OCS ($r = .39$, 95%CI [.31, .47]) の間に有意な正の相関が見られた。

考察

本研究の目的は、保育者の職業意識尺度を開発し、その信頼性と妥当性を検証することであった。

まず、確認的因子分析によって保育者の職業意識尺度は 28 項目 2 因子構造が確認され、保育者の職業意識尺度全体での Cronbach の α 係数および McDonald の ω 係数と十分な内的一貫性が示された。また、下位尺度の寄り添い因子およびセルフ・コントロール因子においても同様に十分な内的一貫性が示された。

次に、作成された尺度の各因子について述べる。「寄り添い」因子は、子どもの心や体の成長に合わせ寄り添って保育や教育を実践することを表しており、他者の幸せを願う他者志向性と深く関連することが推察される。他者志向性に関わるものとして、真島 (1995) は、他者志向動機を「自己決定的でありながら、同時に人の願いや期待に応えることを自分に課して努力を続ける意欲の姿」と定義している。このことから、子どもの健やかな成長を促すための寄り添った保育・教育が翻って保育者自身の成長をも促し、それが保育者としての職務に対する意識を高めることに繋がると考えられる。今回収束的妥当性の検証として用いた既存の尺度では「自己」に焦点が当てられているもの

が多く、自他との関わりの中での職業意識に着目したものではない。一方で寄り添い因子では、援助対象の「他者(子ども)」に対して自分(保育者)がどのように関わっていくのかに焦点が当てられているところが既存の尺度と異なっている。また、「セルフ・コントロール」因子は、自らを律して誠実に保育や教育に励むことを表しており、職務に対しての責任感や誇りと関連することが推察される。これは日本語版 OCS の下位尺度である「情緒的職業コミットメント」、看護師の職務満足度の下位尺度である「仕事に対する肯定的感情」、看護師の仕事意欲測定尺度の下位尺度である「将来的な仕事に向ける意欲」と類似した概念と考えられる。これらの尺度では、自分の職業についてのアイデンティティ、誇りや情熱等を問う項目で構成されており、寄り添い因子と比較して、より「自己」に焦点が当てられた職業意識と捉えられる。このことから、保育者の職業意識尺度の寄り添い因子は、既存の職務満足感や意欲に関わる尺度とは質的に異なる可能性が示唆され、職業意識の新たな側面を測定することができると推察される。次に、相関分析の結果から、保育者の職業意識尺度全体および下位尺度と看護師の職業満足感尺度、看護師の職業意欲尺度、日本語版 OCS の間には主に中程度の正の相関があることが示され、収束的妥当性が確認された。

これらの結果から、保育者の職業意識尺度は概ね信頼性と妥当性が担保されていることが確認された。ただし、本研究ではいくつかの課題が浮き彫りとなった。

第一に、調査対象者の属性に関わる問題である。保育士に限定されたデータではあるものの、こども家庭庁(2024)の調査によると 2024 年 4 月 1 日時点の保育士登録者数は男性が

98,676 名(5.2%)で、女性が 1,799,343 名(94.8%)と圧倒的に男性が少ない。そのため、男性保育者のデータを得ることが非常に困難な状況となっている。事実、本研究における調査参加者も男性が 3.0%、女性が 97.0%となっている。代替案として女性の保育者のみを研究対象とすることも考えられるが、男性の保育者は女性とは異なる男性特有の職務上の心理的特徴が見られる可能性もある。したがって、可能な限り男性保育者の調査対象者を確保する取り組みや、女性と男性を分けた上での心理的構造の差異について検討する必要があると考えられる。また、保育者としての勤務年数は 1 年～10 年未満が 170 名(45.1%)、10 年以上が 230 名(54.8%)と比較的近い割合となっている。性別と同様に勤務歴が浅い保育士とベテラン保育士の間での職業意識の因子構造に違いがある可能性もあるため、今後は多母集団同時分析などを行い、構造の差異について検討する必要がある。

第二に、天井効果に関わる問題が挙げられる。保育者の職業意識尺度は当初 33 項目であったが、天井効果により 5 項目が削除され、最終的に 28 項目が採用された。しかし、実際には天井効果の基準に達しなかった項目でも天井効果に近い水準の項目が複数認められたため、測定結果の妥当性に少ないながらも影響している可能性がある。本調査では調査対象者として保育者 400 名からデータを得たが、尺度作成の観点からいけば決して大きなサンプルサイズとは言えない。サンプルサイズが小さい場合には偶然の偏りの影響を受けやすくなるため、天井効果の項目が多くなった可能性がある。

第三に、適合度の低さが問題として挙げられる。保育者の職業意識尺度の 2 因子モデル

の適合度は CFI=.896 で、基準値(CFI>.90) とほぼ同程度となり、ある程度の適合度の高さは担保されているものの、必ずしも本尺度の因子の妥当性が高いとは言えない。その理由として、上記の天井効果に係る問題が指摘される。つまり、天井効果の基準には達しなかったものの天井効果を示す数値に近似した項目が複数あるため、それらがモデルの適合度を押し下げている可能性がある。

以上のように、保育者の職業意識尺度作成にあたり多くの課題や検討の余地は残されたものの、本尺度は一定の信頼性、妥当性が確認されたと言える。そして、既存の尺度とは焦点の異なる「他者志向」的な職業意識を見出すことができた。多くの職業は他者と何らかの形で関わるが、対人援助職ではより他者志向的職業意識が求められると考えられる。その意味では、本研究は新たな視点を提供したという点で一定の意義があるだろう。

引用文献

デジタル大辞泉「職業意識」 weblio 辞書, Retrieved January 29, 2025, from <https://www.weblio.jp/content/%E8%81%B7%E6%A5%AD%E6%84%8F%E8%AD%98>

藤村敦・結城裕也・柴田亮(2021). 若い保育者が保護者苦情対応に関するネガティブな精神状態を軽減するための認知方略 (I) 函館大谷短期大学紀要 35,1-8.

長谷川 美貴子(2012). 看護学生における職業社会化と職業意識の関係性 淑徳短期大学研究紀要, 51, 167-184.

こども家庭庁(2024). 「保育士登録者数等(男女別)」 Retrieved January 26, 2025, from https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/e4b817c9-5282-4ccc-b0d5-ce15d7b5018c/5871138b/20241016_policies_hoiku_124.pdf

小島 秀夫・篠原 清夫(1985). 大学生の職業意識形成過程の研究—教育学部生の職業意識の分析— 茨城大学教育学部紀要(教育科学), 34, 281-296.

厚生労働省(2022). 「保育士の現状と主な取組」 Retrieved January 29, 2025, from <https://www.mhlw.go.jp/content/11907000/000661531.pdf>

Lee, K., Carswell, J. J., Allen, N. J. (2000) A meta-analytic review of occupational commitment: Relations with person-and work-related variables, *Journal of applied psychology*, 85, 799-811.

- 真島 真理(1995). 学習動機づけと「自己概念」東洋(編)現代のエスプリ 333 意欲やる気と生きがい, 123-137.
- Meyer, J. P., Allen, N. J., Smith, C.A. (1993). Commitment to organizations and occupations: Extension and test of a three-component conceptualization, *Journal of applied psychology*, 78, 538-551.
- 撫養 真紀子・勝山 貴美子・青山 ヒフミ (2014). 病院に勤務する看護師の職務満足測定尺度の信頼性・妥当性の検討 社会医学研究, 31, 37-44.
- 太田 仁・阿部 晋吾(2017). 保育士の専門性とキャリアコミットメント—保育士の属性と専門性認知について 日本教育心理学会第 59 回総会発表論文集, 156.
- 佐野 明美・山口 桂子(2005). 看護師の仕事意欲測定尺度の作成 日本看護医療学会雑誌, 7, 9-17.
- 佐藤 みほ・朝倉 恭子・渡邊 生恵・下條 祐也(2015). 日本語版職業コミットメント尺度の信頼性・妥当性の検討 日本看護科学会誌, 35, 63-71.
- 結城 裕也・藤村 敦・柴田 亮(2022). 「職業意識」の高い保育者とは?—保育者を対象としたテキストマイニングによる分析から— 仙台白百合女子大学紀要, 26, 17-32.
- 結城 裕也・藤村 敦・柴田 亮(2023). 試作版「保育者の職業意識尺度」の作成 仙台白百合女子大学紀要, 27, 7-14.
- 全国保育士会(2003). 「全国保育士会倫理綱領」 Retrieved January 29, 2025 from <https://www.z-hoikushikai.com/about/kouryou/index.htm>

論文

スピリチュアリティと認知行動的セルフモニタリングに関する研究 —宗教観構造の因子分析（主因子法 Promax 回転）による再検討—

山崎 洋史

仙台白百合女子大学人間学部心理福祉学科

問題と目的

1. 宗教・霊性（スピリチュアリティ）

現代、日本において「宗教を信仰している」「特定の宗教団体所属している」「信仰を深めている宗教がある」などの認識を明確に保持している人は少ない。2020年に発表された國學院大學学生宗教意識調査報告によれば、「宗教への関心」に関する質問項目「あなたは宗教にどの程度関心がありますか」に対し、「現在、信仰を持っている」と答えた学生は、回答者の10.7%であった。この割合は、過去に実施された継続研究である2015、2012、2010年の同調査において継年変化は見られない。「実際に宗教集団や宗教団体への所属度は低く、青年では1割にも満たないと言われている。」（石井、2007）が、現在までに続いている。

しかし、質問「信仰はもっていないが、宗教に関心がある。」の回答は、2015年の35.5%から2020年の51.9%へ、信仰は持っているとは自認していないが、「関心はある」とする者が半数を超えており、かつ調査するごとに増加傾向を示している。さらに「信仰は持っていない、宗教にもあまり関心がない。」は2015年の32.8%から2020年の24.9%へ、「信仰は持っていない、

宗教にもまったく関心がない。」は、2015年の20.1%から2020年の9.7%へ、大幅に割合が減少していることが示されている。すなわち、信仰する宗教は持ってないが、宗教には全く関心がないのではなく、何らかの関心は持っているとする人口が大幅に増加していることが明らかになっている。

ここで、宗教や信仰調査に際して、まず、宗教集団を「礼拝や伝道活動といった宗教活動を行う集団のことで、かつ教義・儀礼行事・信者・施設の4つの要件を満たしたもののこと」、宗教団体を「宗教集団の内部に地位や役割の分化が生じ、地位の体系が作り出されて組織化したもののこと」（石井、2007）との定義を用いるならば、日本の宗教人口はその範疇から大いに外れることは明らかである。

その一方、クリスマスは教会でキリストの生誕を讃美歌と共に祝い、大晦日はお寺で除夜の鐘を聴き、正月は神社で初詣、お盆はお寺で墓参りなど、現代人1年間の日常生活において宗教に起因する行事への参加することは珍しいことではない。さらに、こどもが誕生したときに初宮詣、成長を祝う七五三報告祭、加齢とともに厄年お祓い祈祷など、宗教に依拠する宗教行事への参加が、社会への適応を確認する有効なスピ

リチュアリティ・セレモニーとして必須のものとなつていく様相もある。

そこで「宗教を信仰してはいない」との認知を有している一方、宗教に依拠する行事に、様々なスピリチュアリティ・セレモニーに多くの日本人が日常的に参加ならしめる要因は何であろうか。

「スピリチュアリティ」「霊性」など「こころの深層に加護観念と霊魂観念が隠れていて、当人もそれを宗教だとは通常意識しない宗教性を持っている。加護観念とは、年中行事としての軽い宗教との結びつきに親しみを感じ、自然に対しても神仏のように謹んだ気持ちをもった宗教性のことである。霊魂観念とは霊的存在への信仰や死者への畏怖の感情、あるいは願い事を叶えてくれたり、たたりや罰を与えてくれたりするような人知を超えた存在に対する畏怖の念、あるいは輪廻転生を信じることなど、そうした観念が合わさったもののことである。この2つの観念は日本人が脈々と受け継いできた宗教観といえる。」(金児、1997)¹等もその説明として挙げることができよう。その文脈においても、宗教と霊性・スピリチュアリティに関するエビデンスに基づく客観的確認が求められる。

本研究において、現代日本の宗教的関係性やその程度を表現する概念である「宗教性」は「個人における宗教への関わり」を意味し、「宗教観」は「宗教に対する考え方」「宗教に関する認知行動的セルフモニ

タリング」と定義する。(山崎、2021)

宗教観の認知的枠組み如何によってその後の人間行動が規定される初詣、墓参り、クリスマスなどの日常行動化の要因は、宗教観の構造が実証されることにより、その因果関係が明らかにしていくことが可能となるのである。

2. 宗教観の認知的枠組み

人間個人の信念や価値観に基づく行動選択は、自らセルフモニタリングされた結果であるか否かにより、その後の行動展開に大きな影響を与える。自己内に形成されている認知的枠組みと、環境との間に存在するモニタリング認知の存在が人間の適応に大きく関わっている²。(山崎 2013)

(Figure 1)

個人の認知的枠組みにおいて社会的文化的環境は、大きな影響を与えており、自ら育った文化により大きく異なる。日本文化圏、キリスト教文化圏、イスラム教文化圏、仏教文化圏など、各文化圏に於ける認知的枠組みは、その行動を大きく規定している。

現代の日本においては、宗教に関するその社会的規定因として、多くの文化圏の併存、あるいは儀式的併存が有るのは周知の事実である(神道儀式、仏教的儀式、キリスト教的儀式、他)。この現代日本に於ける宗教と「認知行動的セルフモニタリング」に関する研究、特に日本における自己と、その自己を取り囲む社会的イベント、適応

¹ 金児暁嗣(1997)は、宗教観の因子分析において、向宗教性、加護(報恩)観念、霊魂(応報)観念を抽出している。

² 認知行動的立場における行動コントロールにおいて、セルフモニタリングは行動に対するモニタリングだけでなく、モニタリングされた行動に対する認知も重要とされている。

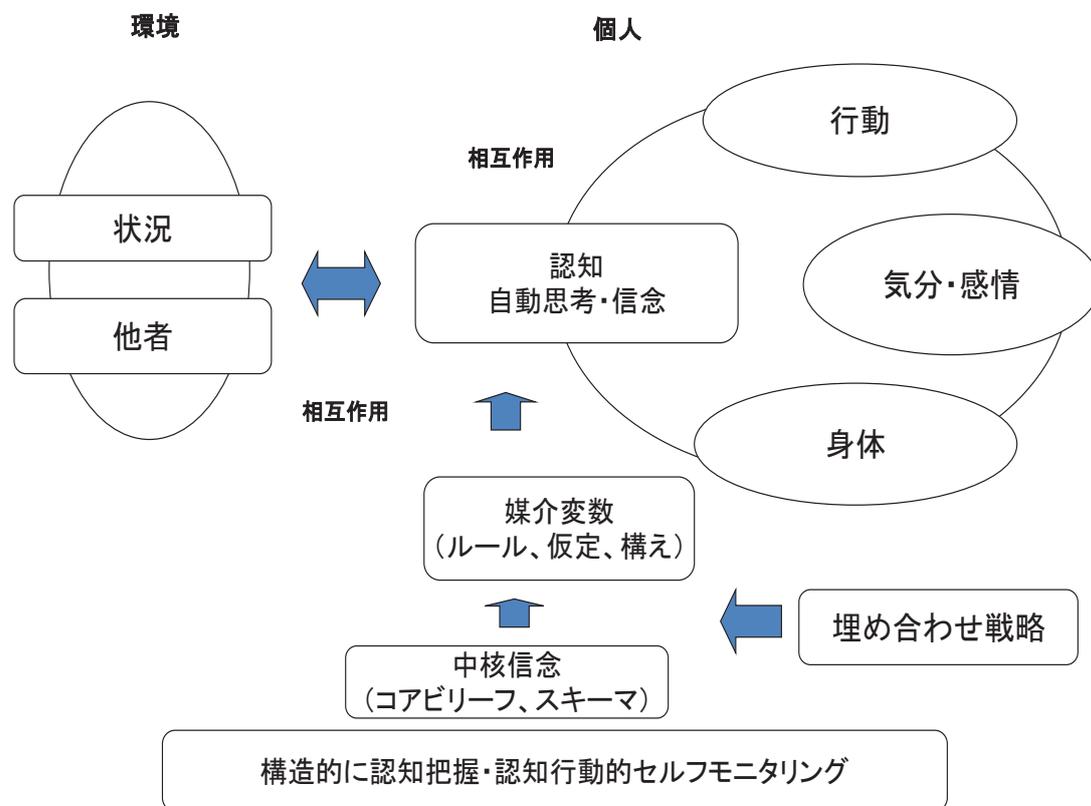


Figure 1. 認知行動的セルフモニタリング構造図 (山崎 2013)

に関する結果としてアウトプットされる行動の間に介在する宗教およびその文化的儀式の意味についての認知行動的相関関係をエビデンスにもとづいて明らかにした研究は少ない。(山崎、2021)

よって、現在におけるスピリチュアリティと認知行動的セルフモニタリングに関する一連の再検討の文脈に位置づけられる本研究においては、認知的セルフモニタリングと宗教に関する調査を実施し、多変量解析を行う。具体的には、今日 2024 年時における認知行動セルフモニタリングとしての宗教およびスピリチュアリティの位置を明確にする尺度の再検討をするため、2013 年に実施した宗教観尺度の項目を再検討し

項目の精選を行い、構造確認のため因子構造の再確認を行う。本研究は今日的宗教観因子構造におけるスピリチュアリティ研究の基礎的フレームに資するのが目的となる。

方法

1. 質問紙調査法

- ・調査参加希望者対象に実施
- ・google form を使用。QR コードによるアクセス、質問紙記入

2. 教示

実施時、調査対象者に対して次の教示を行った。

- ・質問回答は自己判断、回答は義務では

ないので、途中で中止も可能である。その際、何ら不利益は生じない。

- ・回答は研究以外では用いられないこと、数量データとして統計的に処理され、個人に関するプライバシー管理は徹底される。
- ・研究結果は後日公表される。

3. 質問紙構成

・「フェイスシート」年齢と性別の記述を求めた。

・「信仰の有無」に関する質問

調査対象者の宗教の信仰の有無を尋ねた。宗教団体への所属、信仰の有無を組み合わせ、以下の 5 つの中から選択をする。(國學院大學学生宗教意識調査報告(2020)同様)

- ① 現在信仰を持っている
- ② 信仰は持っていないが、宗教に関心はある
- ③ 信仰は持っていないし、宗教にあまり関心がない
- ④ 信仰は持っていないし、宗教にも全く関心がない
- ⑤ その他(その他選択の場合は、その理由の記述を求めた。)

・「宗教観尺度」41 項目 4 件法

2013 年山崎調査時の宗教観尺度として、高木・吉田・森(1987)、張・高木(1989)、谷(2007) 40 項目質問紙 1: 「全くそう思わない」-4: 「非常にそう思う」の 4 件選択法の項目精選を、より現代に合わせるべく、質問紙作成時に実施した。

質問紙 40 項目を宗教学研究グループにより、今日の term としてよりの確な認知的セルフモニタリングが可能であるかの視点

で再検討した。その結果、新しい項目として以下のような term への変更、および分割追加を実施した。

・項目 8 「信仰によって、自己を内省し、反省することができる。」→「信仰によって、自分を内省し、反省することができる。」

・項目 11 「宗教には、排他性や他への攻撃性、差別がみられる。」→「宗教には、異なる者に排他的、攻撃的、差別が見られる。」

・項目 12 「宗教組織は、強制的である。」→「宗教組織は、個人の考えや行動に対して強制的である。」

・項目 13 「信仰は、盲目的で他を顧みない。」→「信仰は、盲目的で他を顧みない傾向が見られる。」

・項目 17 「宗教は、国の考えに影響し、政治に利発され。争いに発展する。」→「宗教組織は、時代の流れに影響され、政治に利用されるなど。争いに発展することもある。」

・項目 20 「宗教によって、思想が偏り、物事を客観的、科学的、論理的に見ることができなくなる。」→「宗教によって、考えや行動が偏り、客観的、科学的、論理的に考えることができなくなる。」

・項目 25 「人間は、心の修行をし、正しい行為を重ねることで、その使命を全うして霊界に戻り、輪廻転生を繰り返しながら高次の段階に進む。」→「人はまっとうな行いを続けていると、その結果は必ずいつか報われる。」「人としての道を誤ると、その結果は、必ずいつか罰せられる」(項目 25 及び項目 41 として分割し新設項目追加)

・項目 29 「いつも、神や仏に見守られていると思う。」→「『おてんとうさまは見ています』という言葉は理解できる。」

4. 調査期間

2024年10月～12月

5. 調査対象

関東・東北国立私立大学生 628名の質問回答紙回収。回答の不備や欠損値などを検討し、有効回答数 597名を分析対象とした。

全体 597名（18～25歳、平均年齢 20.02歳、SD=1.18）

男性 243名（平均年齢 20.08歳、SD=1.15）

女性 354名（平均年 19.82歳、SD=1.12）

結果

1. 信仰の有無

宗教団体への所属、信仰の有無を組み合わせた5つ選択肢のうち最も多かったのは、「信仰は持っていないが、宗教に関心はある」は、301名（50.4%）、男性123名（20.1%）、女性178名（29.8%）であった。「信仰は持っていないし、宗教にあまり関心がない」149名（25.0%）で、男性61名（10.2%）、女性88名（14.7%）であった。「信仰は持っていないし、宗教にも全く関心がない」57名（9.5%）。男性23名（3.9%）、女性33名（5.5%）であった。「現在信仰を持っている」60名（10.1%）であった。男性24名（4.0%）、女性36名（6.0%）であった。「その他」は30名（5.0%）。男性12名（2.0%）で、女性は18名（3.0%）であった。

2. 宗教観尺度の信頼度と因子分析

宗教観尺度に関する信頼性分析をCronbach α 係数を用いて行った。その結

果、 α 係数は.87であった。よって本尺度の内的整合性は保証された。

次に、宗教観に関する因子構造を確認するため、各因子間に緩やかな相関が予想されるため因子分析は、主因子法、Promax回転を行った（Table 1）。その結果、固有値を配慮した結果3因子が抽出された。各因子の因子負荷量0.4未満の6項目を削除し、35項目が選択された。

第1因子は「信仰心を持つことで、安らぎや幸せを感じることもある」「信仰心は心の拠り所や生きがいとなる」「信仰によって、自分を内省し、反省することができる」「宗教は、人の手に余る悲しみを和らげ、救いとなる」「信仰心を持つことで安らぎや幸せを感じることもある。」などの質問16項目からなる。

因子負荷量の高い項目から因子名として「宗教肯定（個人的）因子」と命名した。

第2因子は「宗教活動は、金銭に結びつき、営利に陥りやすい」「宗教には、異なる者に排他的、攻撃的、差別が見られる」「信仰のために、他に迷惑をかけても気づかなくなる」「宗教組織は、個人の考えや行動に対して強制的である」「宗教によって、考えや行動が偏り、客観的、科学的、論理的に考えることができなくなる」などの質問13項目からなる。

因子負荷量の高い項目から因子名として「宗教否定（集団的）因子」と命名した。

第3因子は「神や仏は存在する」「守護霊や守護神などによって守られている」「宇宙をコントロールする大きな何かが存在する」「『おてんとうさまは見ています』という言葉は理解できる」質問6項目からなる。

Table1.宗教感尺度の因子分析（主因子法 Promax 回転）

項目番号	項目(因子名、 α 係数)	因子負荷量		
		1	2	3
	「宗教肯定(個人的)因子」 $\alpha = .89$			
1	信仰心を持つことで、安らぎや幸せを感じることもある	0.81		
3	信仰心を持つことによつて、心が洗われる	0.79		
7	信仰心は心の拠り所や生きがいのことである	0.77		
9	宗教は、人生観、世界観、価値観の基準を与えてくれる	0.75		
8	信仰によつて、自分を内省し、反省することができる	0.73		
5	宗教は、人の手に余る悲しみを和らげ、救いとなる	0.72		
10	信仰心を持つことによつて、自分の考えや主張を確立することができる	0.69		
6	宗教活動を通じて、信者同士のつながりができ、楽しさを感じる事が出来る	0.66		
32	信仰することによつて、お互いに助け合う気持ちを養うことができる	0.63		
4	宗教活動によつて、皆同じ体験を共有し、共感することができる	0.61		
34	信仰心を持つことによつて、人との交わりに我を出さず、和を持って接することができる	0.59		
37	宗教心とは、自分の愛し、信じるものを救い重んじることである	0.54		
28	宗教活動には、活動そのものに一体感があり、充実感を得ることが出来る	0.51		
23	信仰は精神安定剤の役割を果たす	0.49		
39	信仰とは感謝する気持ちを学ぶことである	0.47		
36	信仰心を持つことによつて、生き物に対し、愛情が深くなる	0.45		
	「宗教否定(集団的)因子」 $\alpha = .91$			
19	宗教活動は、金銭に結びつき、営利に陥りやすい		0.79	
11	宗教には、異なる者に排他的、攻撃的、差別が見られる		0.76	
14	信仰のために、他に迷惑をかけても気づかなくなる		0.72	
12	宗教組織は、個人の考えや行動に対して強制的である		0.68	
20	宗教によつて、考えや行動が偏り、客観的、科学的、論理的に考えることができなくなる		0.67	
13	信仰は、盲目的で他を顧みない傾向が見られる		0.63	
16	宗教組織は、偽善的である		0.56	
31	宗教活動は、生活を束縛する		0.52	
17	宗教組織は、時代の流れに影響され、政治に利用されるなど。争いに発展することもある。		0.51	
24	信仰を持つことは、他力本願で、消極的である		0.49	
30	宗教とは、大いなる自然の力に恐怖した人間の自己防衛手段である		0.48	
27	宗教組織は、自信を失った人間の逃げ場となる		0.47	
2	信仰心とは、自分以外のものに頼る心である		0.46	
	「崇高な存在」因子 $\alpha = .88$			
15	神や仏は存在する			0.84
26	守護霊や守護神などによつて守られている			0.81
40	宇宙をコントロールする大きな何かが存在する			0.76
29	「おてんとうさまは見ています」という言葉は理解できる			0.61
25	人はまっとうな行いを続けていると、その結果は必ずいつか報われる			0.42
41	人としての道を誤ると、その結果は必ずいつか罰せられる			0.41
		因子間相関1	-0.2	0.46
		2		-0.32

因子負荷量の高い項目から因子名として「崇高な存在因子」と命名した。

3因子の累積寄与率は46.56%であった。Table1に各因子の相関も示した。

各因子の Cronbach の α 係数は、第 1 因子「宗教肯定（個人的）因子」は $\alpha = .89$ 、第 2 因子「宗教否定（集団的）因子」は $\alpha = .91$ 、第 3 因子「崇高な存在因子」は $\alpha = .88$ であった。よって、内的整合性は全 3 個の下位因子は保たれている。

考察

本研究は、現代日本における宗教観構造を、因子分析（主因子法 Promax 回転）によって明らかにしようとするものである。宗教感尺度の項目精選を実施し、質問紙調査の結果、有効な 3 因子が抽出された。

第 1 因子は「宗教肯定（個人的）因子」、第 2 因子は「宗教否定（集団的）因子」、第 3 因子は「崇高な存在因子」と命名された。各因子の内的整合性（ α 係数）は、高かった。

因子間相関は、第 1 因子と第 2 因子は、それぞれ第 3 因子に対してマイナス相関を示しており、項目内容的に検討すると妥当であった。今後の最新の宗教、霊性、スピリチュアリティ研究において、その基礎となる宗教観の構造を追加確認することができた。

先行研究の調査においても「信仰を持っている」人口は、極めて少ないことは既に述べた。また「宗教は危ないと考えるか」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」との回答は 60% 以上であった（國學院、2020）。宗教団体へ所属しているとする人口は少ない。この現状は過去 10 年以上、変動していない。

一方、本調査において「信仰は持っていないが、宗教に関心はある」の問いに対して、半数の 301 名（50.4%）、男性 123 名

（20.1%）、女性 178 名（29.8%）にのぼっている。先行研究においても、信仰は持っていないが「神の存在」「仏の存在」「靈魂の存在」「先祖様に守られている」「死後の世界の存在」については、過半数の者が「ありうると思う」と答えており、「宗教は人間に必要と思うか」「宗教を信じると心のよりどころができるか」のような宗教に対するポジティブな認知も、回答者の過半数が肯定的選択（井上、2018）をしているのである。

今日、スピリチュアル・パワースポット、聖地巡礼、御朱印帳など、一般的関心は極めて高い。日常生活ルーティンにおいて宗教に起因する行事への参加行動は常態化しており、神社、仏閣、教会などで心が癒され、満足感や幸福感を得て、日常のストレス事態が起きた時、それを解消するための行動（ストレスコーピング）を適応的に変化させることなど、その宗教に関連する行事参加や断片的要素の利用・活用など、それらが適応上有効なものとなっている。

「信仰は持っていないが、宗教に関心がある」の問いに含まれる「この一見矛盾する反応」が過半数以上を占めている理由は、すなわち「関心がある」の客観的具体的や要素を表しているのが、本研究の第 1 因子や第 3 因子の項目群である。「第 1 因子:宗教肯定（個人的）因子」は、「信仰心は心の拠り所や生きがいとなる」「宗教は、人の手に余る悲しみを和らげ、救いとなる」「信仰心を持つことで安らぎや幸せを感じることもある。」など、個人的内面的にポジティブ要素や側面を、「第 3 因子:崇高な存在」は、「守護霊、守護神に守られていると思う」「神や仏は存在する」など個人

のメタ認知の在り様を明示している。

同時に、「信仰は持っていない」とする意・理由は「第2因子:宗教否定(集団的)因子」の項目群が表しており、集団的組織的側面に対する「信仰のために、他に迷惑をかけても気づかなくなる」「宗教には排他性や他への攻撃性、差別がみられる」等が、「宗教は信仰していない」「宗教は怪しい」などのネガティブな行動や意識と関連し、宗教の集団的組織的なネガティブ要素・側面を構造として明示しているのである。

本研究における以上の宗教感尺度の精選結果は、宗教軽視の風潮、宗教そのものへの警戒、宗教や宗教性を感じさせるものに対する慎重さ、否定的拒否的反応などは、宗教集団・組織に対するマイナスのイメージによる傾向が強いことが示された。

一方、個人的な主観的である「崇高な存在」として、神社、仏閣、教会などで心が癒され、満足感や幸福感を得る、日常のストレス事態が起きた時に、それを解消するための行動(ストレスコーピング)を適応的に変化させることなど、その宗教に関連する個人的な枠組みはプラスの有効なものとしていることが分かった。

この研究を受けて、宗教観に集団的組織的側面と個人的認知的側面の両方の構造が含まれていることから、特に、個人的認知的側面を「スピリチュアリティ的側面として位置づけることとする。宗教観とスピリチュアリティの関係性については、「スピリチュアリティ」という語は、従来の宗教という言葉が持つ組織や制度という側面とは

切り離れたところで、個人の体験として存在するある種の宗教的意識に重点が置かれている」(安藤、2007)として、宗教感から組織制度を切り離れた個人的な位置づけであるとしている。また、スピリチュアリティは、「宗教の核心部分にあたるが、組織宗教では形骸化したり、表現が抑制されたりする性質をもつ」(堀江、2007)。すなわち宗教とスピリチュアリティはコアな部分では同一であるが、宗教から組織や制度という側面を切り離れた、個人的側面であるとしている。弓山(2010)は、「スピリチュアリティは教義・儀礼・組織を備えた教団宗教から離れた非制度的かつ個人的な宗教意識のこと」と定義している。宗教観の個人的認知的側面の構造を抽出していく目的で「スピリチュアリティ」を鍵概念とする。

今後の課題

再確認により明らかになった宗教観構造の内、第1因子第3因子からなるスピリチュアリティを中心概念として、スピリチュアリティと心理支援、意味の把握、統合、第3世代認知行動療法とその技法、ケア対象における事例研究、スピリチュアルケア師、臨床宗教師に連なる一連の研究に、経験智のみではなくエビデンスに基づいた研究深化が望まれる。

今後の課題として、適応支援のためには、宗教の個人的認知的側面に関する心理教育等更なる詳細な分析が必要となる。

引用参考文献

- ・井上順孝(2018) 学生意識調査 総合分析(1995 年度～2015 年度) 國學院大學日本文化研究所紀要
- ・井上順孝(2017) 学生意識調査 総合報告書(1995 年度～2015 年度) 國學院大學日本文化研究所紀要
- ・平藤喜久子他(2022)第 13 回学生宗教意識調査報告(2020 年度)改訂増補版
- ・大久保智生・青柳肇(2003) 大学生用適応感尺度の作成の試み—個人・環境の適合性の視点から パーソナリティ研究 第 12 巻第 1 号 pp.38–39
- ・石原俊一(1992) 改訂セルフ・モニタリング尺度の検討 心理学研究 63 pp.47–50
- ・伊藤裕子・相良順子・池田政子・川浦康至 2003 主観的幸福感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討 心理学研究, 74(3), 276-281.
- ・Jon Kabat-Zinn(1991) Full catastrophe living: using the wisdom of your body and mind to face stress, pain, and illness, Delta Trade Paperbacks
- Kenneth Fung(2015)Acceptance and Commitment Therapy: Western adoption of Buddhist tenets? Transcultural Psychiatry 2015, Vol 52(4)pp.561-576
- ・Koenig HG(2008): Medicine, Religion, and Health: Where Science and Spilituality Meet.Templeton Foundation Press. 杉岡良彦(訳)(2009)スピリチュアリティは健康をもたらすか 医学書院
- ・Michelle J. Pearce、Harold G. Koenig、Clive J. Robins、Bruce Nelson、Sally F. Shaw、Harvey J. Cohen、and Michael B. King(2015). Religiously Integrated Cognitive Behavioral Therapy: A New Method of Treatment for Major Depression in Patients With Chronic Medical Illness.US National Library of Medicine National Institutes of Health Psychotherapy (Chic). 2015 Mar; 52(1): pp.56–66
- ・Rinske A.Gotink,Paula Chu,Jan J.V.Busschbach,Herbert Benson,Gregory L. Fricchione,and M.G.Myriam Hunink1(2015)Standardised Mindfulness-Based Interventions in Healthcare: An Overview of Systematic Reviews and Meta-Analyses of RCTs.PLoS One.2015; 10(4): e0124344. Published online 2015 Apr 16.
- ・谷芳恵(2007) 大学生の宗教観と幸福感に関する心理学的研究神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要第 1 巻第 1 号、pp.17- 24
- ・山崎洋史(2012) 食行動異常と認知行動的セルフモニタリングの関連—青年期の過食行動から 学校教育相談研究 日本学校教育相談学会 第 22 号
- ・山崎洋史(2022) 宗教と認知行動的セルフモニタリング—青年期の適応を通じて—学文社 (文部科学省科学研究費学術図書出版 2022) 他

論文

個に内在するキリストの検討 ——キリスト教的人間学の基礎についての試論

宮崎 正美¹

序

1. 「永遠の記憶」：死と個の救い
2. 神はどこにおられるのか、という問い
3. 個に内在するキリストの議論と考察
4. まとめと課題

結論

【要約】

キリスト教的人間学は、キリスト者 **christian** であるとないとにかかわらず人間存在を、神の恩恵に開かれ救いの対象である尊い存在として根底に据えようとする。他方で、従来のキリスト教的人間観は、非キリスト者を神の恩恵から排除された位置にあるかのように印象づけられてきた。その要因の一つとして人間存在に深く関わり、完全十全な救いに導こうとする活けるキリストの現実を、教会とそのシステムに限定されたことが考えられる。そうした現状においてもなお、何ものにも制約を受けない神の救いの経緯（オイコノミア）の一面を明らかにすることには意義がある。本論考において、現代の神学の中に、生きる個々の人間の内に臨在する（内在する）キリストの考えが既に打ち出されていることを明らかにし、キリスト教的人間学の基礎に据えることを提唱する。

序

キリスト教的人間学は、現代人の直面するさまざまな課題において大きな使命を負っている。

世界的に共有されていたはずの人道主義、台頭する国家主義、気候変動、そして人権といったいずれの現代的課題に対しても、キリスト教的人間学はどう応えるか・応えるべきか注目される。そのキリスト教的人間学は、キリスト教的視点において探究するのであるが、その場合のキリスト的とは何

を指すのであろうか。キリスト教的人間学の基礎は、キリスト者 **christian** であるとないとにかかわらず「人間」の本質を明確にするものといえよう。ところがキリスト教史の初期に成立した教義は、キリスト論を中心として礼拝対象すなわち三位一体の神学内規定に終始しているように「みえる」。

しかしそのキリスト教教義や宗教思想の中に、何かしら人間について正しく把握されていることが含意されていたはずである。もし、そうでなければキリスト教的人間学自体が成立しない。つまり、キリスト教教義

¹ 仙台白百合女子大学人間学部教授、人間学研究センター研究員。

(たとえばキリストの受肉、十字架の死、復活といった信すべき²内容)の中に、人間をめぐる具体的な個々の課題や事例(人間学的課題)に対する解決があって、それによってキリスト教的人間学が成り立つはずである。

これは、キリスト教教義そのものに問題があるのではなく、キリスト教による救いがいかにして個々人の救いに接続するようになるのが、伝えられてきていないところに大きな問題がある。つまり伝統と伝承の問題でもあるといえよう³。

本論考では、こうした問題意識を出発点として、宗教的帰属を問わず「人間」を対象としたキリスト教的人間学の基礎として、すべての人間がキリストの復活によって切り開かれた神の救いの営みの下にあることを念頭におく。それはしたがって、個々の人間には可能性を含めて「内在するキリスト」が考えられねばならないだろうと展望する。こうした方向性で考察する。

1. 「永遠の記憶」：死と個の救い

救いが問題となる現実として、人間の死の場面で、教会がどのように祈るか。その言葉から伝承される内容について考察しよう。

正教会の追悼祈祷パニヒダの最後に「永遠の記憶」(Αἰώνια ἡ μνήμη, Вечная память)⁴と三度歌われる聖歌がある。カトリックにおい

て似た表現に「永遠の安息」等の表現がみられるのに対し、この前者の表現には矛盾がある。

物理的医学的現象としての側面に限定して客観的にみるならば、「(人間の)記憶」は、本人の脳という肉体の一部に依存している。その肉体の在り方は自然現象の一つに位置付けられているのであるから、脳という肉体の一部もやがて死と呼ばれる必然的な変化を被り、自然的世界へ還元されていく。したがって、脳に依存するわれわれ自身の記憶は、死後は肉体の消滅に伴い、少なくとも生きていられるわれわれ人間が意識し認識する様式ではもはやなくなっている。このように、単純に論理的に考えてみても、永遠ではない人間の生命と結ばれている記憶もまた、そのままであれば、決して永遠でありえない。

では、我々が今この瞬間ごとに経験し“記憶しているもの”は、いずこへ行きどのようになるのであろうか。

そもそも、このことは本人の視点からいえば、本人が「自分自身のものと看做している自分の肉体および記憶が、自分のもではなくなる」という事態が決定的となることを意味する。この記憶と結びついた生前の経験もまた同様である。

したがって死に際しては、記憶そのものが無になるかどうかはさておき、次のことを意味する。本人(1人称単数)の記憶は、死後においては、**本人(1人称単数)だけのものではなくなる**、という点で決定的現実となる⁵。このこ

² 「信すべき」という表現に人間の自由に対する脅威とみなす混乱した考えがあることは承知しているが、ここでは個々人の好み(好き嫌い)のレヴェルの問題ではなく、人間本性による人間存在にかかわる「信頼する」「信をおく」行為として問題にしている。この「~すべき」は、存在そのものにかかわる必然的表現である。

³ 本論考では詳細に扱わないが、キリスト教の伝統の担い手である教会は、個々の人間の救いにどのように向き合ってきたのが、反省的に問われることになろう。カトリック神学者 Yves Congar は主著の一つ *Je Crois en L' Esprit Saint*, Tome II (邦訳『わ

たしは聖霊を信じる 第二巻』現代カトリック思想叢書2, サンパウロ 1995年)の第一部(*Première partie, L'Esprit Anime L'Eglise*)に続く第二部(*Deuxième partie, Le Souffle de Dieu dans nos vies personnelles*)で 個々の人間への聖霊の関与を扱っている。

⁴ ギリシャ語、ウクライナ語。以下、各々[G]、[Uk]のように各言語の英語表記の頭文字で表記する。

⁵ 本人が記憶しているか否かに関わりなく、たとえ無意識であったとしても記憶障害があったとしても、歴史という場において本人が成した経験とその記憶は、本人の人格を形成する要素の一つである。した

とは言い換えると、死後において本人の記憶は、**〈他者〉との共有可能性に開かれる**ことを意味すると言い得る。

しかし、生きている人間の経験およびその記憶は、個々人の**人格と深く結びついたもの**である。生き終えた後の記憶の共有可能性が開かれる〈他者〉とは、人格的存在でなければならぬが、別の記憶を有する他のだれか人間存在とは考えられない⁶。

ただし本人（1人称単数）と共にその経験と記憶を共有する人格的超越者がいれば、上記の記憶を共有する〈他者〉とは考えうる。つまりその人格的超越者とは、キリスト教的理解においては神を仮定することができる。ここに、第三者（あるいはキリスト者の場合は2人称）としての永遠の神が、その個人の記憶を引き受けて共有する可能性をみることができる。

しかし故人となった者の記憶が神に引き受けられるとしても、あたかもその本人の記憶を伴う「魂」を神が引き受けるかのように一般にイメージされているように思われる。

結果、生きている者たちが、死者を弔う墓石等に向かってその死者があたかも生前の記憶を継続しているかのように語りかける。その素朴な宗教心はたしかに一方では世界中で広く受け入れられている。しかし、故人の存在がどうなってしまうのかは遺された者たちにとっては不明なまま、次のように表現されることがある。故人の記憶（この場合は故人自身が有する記憶ではあり得ないので、故人に関する記憶である）は周囲の「生きている者の心に

『生きている』、と。これは、亡くなった者の人格と深く結びついた本人自身の記憶と、周囲の生きている者の追悼の動機となる記憶（故人に対し他者である者の記憶）とをすり替えているだけであって、ここで問題とする救いの問題に正面から目を向けたものになっていない⁷。

そのような視点のずらしは、無論、遺された者の傷心を思えば、同情を禁じ得ないが、しかし同時にそれは、死に関して何も答えは得られないという見込み（あるいは諦め）からくる可能性は多分にある。

ということは、それは人間一般の実存から湧き上がる以下のような問いに対して、どうせ答えはえられないだろう、自分の心からの問いに対し応えるものは何も無いであろう、どうせ肉体は消滅するしかないから、という諦観が横たわっているのではなからうか。——いったい神は本人の経験と記憶をどこへどう扱うのか。神はどこにおられるのか、あるいは人間はどこに神の痕跡をみればよいのか。肉体の復活を、キリスト教はミサや礼拝の中で信仰告白する。したがって自然世界の物質に依存し物質から成る私のこの肉体と私のこの記憶は、キリスト教においては「復活」によって担保される⁸。

とはいえ、それはどのようにしてか。さらにまたこの神の所在を問う問いは別の意味を有するゆえに、やはり問われねばならない。

がって、人間の全的救いを述べ伝える正統キリスト教が示すように、肉体とともに人間の経験とその記憶もまた、神の救いの対象となる。

⁶ 死者の記憶の問題に関連し、後の時代の他者にその記憶が引き継がれてあたかも輪廻転生を示す現象があるといわれることがある。しかしそれについては本論考の対象ではない。

⁷ しかし他方で「故人がこの世に存在していたことを誰かが記憶してなければ、彼（ら）が確かにこの世に生きていたことの証を残せない」という被災者の

証言は、確かに傾聴に値する。ある人の存在の記憶は、他の人格の存在にかかっているのである。しかし誰であれこの世界での人間の存在は有限である。

⁸ 「私はこの復活の霊において、ここで全く生き全く愛し全く死ぬことができるのである……私はこの希望によって、すべての被造物を愛することができる。」（傍点は引用者）モルトマン著、沖野政弘訳、『今日キリストは私たちにとって何者か』（新教出版社、1996年）107頁。

2. 神はどこにおられるのか、という問い

前項で、記憶という、個々人に固有の生命現象であると同時に個々の人格と深く結びついたものをとおして、人間を超越する者への問いが、人間にとって普遍的側面を有していることの一面をみた。

それは、では超越者をどこに求めればよいかという問いと同時に、個々人は「個」としてどのようにして救われるのか、という実存的課題を次に問うことになる。

こうした問いを考えるために現代よく知られたキリスト教的な英語詩 “FOOTPRINTS IN THE SAND” をとおして考えてみたい。そこに描かれたキリストの姿は、個として本人には知られないまま絶えず本人とともに同じいのちを生き、同じ経験をともにして、人生をともに歩む復活者の姿である⁹。それは単に詩の中の想像にすぎないのであろうか。キリスト教における個々の人間の救いの経験は、個々の人間に内在するキリスト¹⁰との個々のストーリーが証言として表現される。キリスト教教義、

またそれ以前に存在したさまざまな信仰告白は、そうした個々の救いの証言の集積が土台となっている。したがって個々が発する神についての問いは、(たとえ不完全で、純粹抽出されたものではないとしても) 同じ人間である個々の証言にも求められねばならない¹¹。

人間に救いを与える神を、どこに見出せばよいのか、という苦しみを伴って問う問いに向き合うのでなければ、自分にしろ他の者にしろ、この歴史の中で救いを要する者に対して、歴史の中にキリストを通して人類の救いを与えようとした神に出会うことはできない。

2024年6月に永眠したJ. モルトマンは著名な現代プロテスタント神学者であった。その探究の底流にも戦争体験を通しての救いへの問いがある。彼の『組織神学論叢』のキリスト論¹²の一節のタイトルに、同じ問いを付している。

神は、見捨てられた者らの神、父となるために、御子を見捨てられていくまにさせる。……御子は、処刑され、呪われた者の兄弟・救い主となるために、このような死に渡されるのである。¹³

⁹ この詩については著者問題でさまざまな説がある。Carolyn Cartyによるものでは、最後の段落は次のように書かれている。

<https://footprints-poem-author.tripod.com/> (2024年9月5日閲覧)

“...I don't understand why
when I needed you most you would leave me.”
The Lord replied,
“my precious, precious child,
I love you and I would never leave you
during your times of trial and suffering,
when you see only one set of footprints
it was then that I carried you.”

¹⁰ 個々の人間への働きかけは、教会の始まり(使徒言行録 2.1)と一般的キリスト教教義においては、まず聖霊の働きについて言われる。しかし「人間の側から見れば、復活のキリストと聖霊とは一体となって到来し、働きかけるように感じられる」;松田央『キリスト教の基礎』(キリスト新聞社2007年)170頁。また、三位一体それ自体として考察される「theologia 神学」と、人間を含めた被造物との関係で考察する「oikonomia 救いの営み」とを区別する東方キリスト教の区別は、前者において聖霊とキリストは三位一体においては厳格に区別されねばならないが、救いの営みにおいては、父の右の座に昇天

したキリストが派遣した聖霊を、パウロが言うように「キリストの霊」(ローマ8.9)あるいは「キリスト」そのもの(ガラテヤ2.19-20)として言うことができる。

¹¹ この問題は、従来のキリスト教の啓示を「sola scriptura 聖書のみによって」とするプロテスタント神学の原理に対するカトリックの「聖書および聖伝による」の理解に関わる。前者特に聖書に関する根本主義は聖書の成立以前の教会の存在と連続性を想定している点で無理がある。回帰の目標とする初代教会においては旧約聖書とキリスト者の証言が神のことばを媒介するものであったはずである。筆者は聖伝を不文律のようなものとしてではなく、内在するキリストと共に歩む個々人の生の証言を、第二次的な(しかし非常に重要な)伝承と考える。これについては別の機会に論じたい。

¹² Jülgen Moltmann, *Der Weg Jesu Christi: Christologie in messianischen Dimensionen*. Gütersloher Verlagshaus, 1989 =J. モルトマン、蓮見和男訳『イエス・キリストの道: メシア的次元におけるキリスト論』J. モルトマン神学論叢3(新教出版社、1992年)。なお、続いて言及したタイトルは「第三節 キリストの神的苦しみ——どこに神はいるか」(同書、270頁)。

¹³ J. モルトマン、前掲書、275頁。

十字架のかけに生きなくてはならないすべての者、すなわち権利を奪われた者たち、また不義なる者たちに、メシアの希望・神との交わりをもたらしたのである¹⁴。

「共苦する神」という考えについてモルトマンは、古いユダヤ的思考にみられ、同じ考えをパウロはイエスの復活の光の下で書簡で述べ、それをオリゲネスが受け継ぐといった歴史をふまえつつ、現代の諸状況の光の中で、献身の神学として以下のように述べる¹⁵。

神に見捨てられたキリストの、「わが神、どうして私をお見捨てになったのですか」という神への叫びに対する献身の神学の解答は、次のようだからである。「私は、ほんの一時あなたを見捨てた。それは、あなたが、見捨てられた人間の兄弟となり、あなたとの交わりにおいて、何ものをも私たちの愛から離れさせることのないためである。」¹⁶

モルトマンは自らこれを「神秘主義的解答」とし、「キリストの苦難」は神的と表現しつつ、「神はどこにいるのか?」という問いに対して次のようにまとめる。

神はそれ(引用者注「キリストの苦難」)によって、人間と被造物のあるところどこでも、「神、われらと共に」と、人間および全被造物と連帯した……「私たちは、神からである」と、すべてのものの新しい創造がそこから生まれる……¹⁷。

つまり、神は、キリストを通してあらゆるところ特に苦しみのあるところに、人間と共におられる、ということになる。キリスト教の神は超越者であると同時にペルソナをとして存在するのであるから、人間を通して神は知られるこ

とになる。つまり、人間は神を直接に知ることはできないが、人間と共に在る神については知り得ることになる。

したがって、ここで問題にしている実存的な問い(神の所在)は、人間にとっての救いへ導く啓示の主体を求めていることを含意するが、それは救いの経緯(オイコノミア)としての視点でいえば、人間の内に臨在している、ということもできる。

ここで述べたことは、カトリック教会や正統的キリスト教が確信している、「キリストが啓示の完成である(c.f.『啓示憲章(DV)』4)こと」に何か新たに加えるものでもなければ、減ずるものでもない。しかし神のことばであるキリストは、同時に苦しむ者と共にある(内在する)キリストでもある¹⁸、という理解は補足しておきたい。

本項での以上の考察から次に出てくる問いの一つは、なぜこのようなこと(つまり人間にキリストが内在すること)が起こり得るのかである。それについては、キリスト教正統教義が明示するキリスト両性論(キリストが「真の神であり、真の人である」こと)に根拠をおいていることが、現代キリスト教神学のなかに確認できる¹⁹。

古代教会の神学は……キリスト論の面では、両性論を発展させ、451年のカルケドン会議で一応の決着をみた。救済論の面では、「自然的物理〔身体〕的救済論」……を展開することとなった。……キリスト論と救済論とは、互いに対応しあっているのである。このキリスト論と救済論との対応という基本的考えは、イレナエウスからアタナシオスにいたるまで、

¹⁴ J. モルトマン、前掲書、283頁。

¹⁵ J. モルトマン、前掲書、242-333頁。

¹⁶ J. モルトマン、前掲書、286頁。

¹⁷ J. モルトマン、前掲書、287頁。

¹⁸ 福音書以外の新約文書において内在するキリストへの言及が以下の箇所にもみられる。ローマ 8. 10-11, 2 コリント 13. 3, 13. 5, ガラテヤ 2. 20, 4. 19, エフ

エソ 3. 17, コロサイ 1. 27, 1. 29, 1 ペトロ 1. 11 (預言者), 1 ヨハネ 5. 20。

¹⁹ なぜ明示でなく暗示なのかについては、キリスト教史におけるミステリーの一つというより他なく、筆者自身が納得いく解答を得られていない。ただし、現代の神学にもし欠けていることがあるとすればこの点において他に思いつくものはない。

たえず新しい変化をともしながら形成されていった。すなわち、「私たち人間が神々に、つまり神的生にあずかるために、神は人間となられた」。²⁰

モルトマンは、このようにキリスト教教義の中から根本的なキリスト教的人間観を導き出す。それと同時に、キリストの内の「真の人」としての本性をとおして、さらに人間の肉体をとおして、自然全体の再創造まで視野に入れる²¹。こうした神の救いは（内在する）キリストをとおして個々の人間に具体的に現実となっていくのである。

次の章においては、この個に内在するキリストをめぐる議論をいくつか取り上げて考察する。

3. 個に内在するキリストの議論と考察

前項で、個としてのキリストおよび人間——したがってキリスト論とキリスト教的人間学とが関連することをみた。

念のためいえば、キリスト教的人間学としての視点は、教会という共同体をとおして救いへと至ること、つまりパウロ書簡で述べられる「キリストのからだ」たる教会やその働きに参入することをとおして救いに至ることについて

て否定するものではなく、むしろ教会を介しての救いは重要視されてきた。かつてのカトリック組織神学では、このキリスト論から、キリストを頭とする教会に関する教会論へと接続した²²が、キリスト教的人間学の基礎としては、あえてここで個に内在するキリストについての考察へと進めるべきと考える。それは、教派によって教会論、秘跡論の見解に隔たりがあることも事実上一因であり、キリスト教的人間学はそうした教派間の異同の影響を極力少なくすべきだからである²³。人間に「内在するキリスト」に関する共通理解は、異同を超えてキリストにおいて一つ（エフェソ 2. 14-16）となり「キリストにおいて……霊の働きによって神の住まいとなる」（同 2. 22）からである。

3-1. 内在的方向での神と人との接点

従来は、神とは、あくまでも超越者としての位置から個々の人間の信仰の度合いに応じて恩恵を与える者といった神観が強かった。つまり、「どこに神を見出そうとするか」に対して、自己の外、この世界をはるかに超えた「場所」を想定していた。そのように過去において神学・哲学は超越的方向に片寄り過ぎていたため、それを補完するものとして内在の方向で理解する試みは、ラーナー以外の神学では 20 世紀後半以降に発展した。

²⁰ モルトマン、前掲書、91 頁。

²¹ こうした被造物世界いわば宇宙全体におよぶ現代の救済論は、エイレナイオスをとおして新約聖書パウロ書簡の神学「ἀνακεφαλαιώσις 再統合」（エフェソ 1. 10 参照）に至る。

なお、現代神学者の一部は、新約聖書、ギリシャ教父に遡るこうした救済論の全体像を、すでに共有し合っているように思われる。Denis Edwards, *JESUS AND THE COSMOS*, Paulist Press, Mahwah, 1991 参照。

²² 筆者は浅学菲才にして現代の神学教育の現状について不明であるが、かつて 1990 年頃の神学教育行くにおいては神学的人間論という名称がカリキュラムに含まれていた。しかし組織神学という用語をこの語に置き換えただけでは大きな意味の変化とは考えられない。第二バチカン公会議「現代世界憲章」の神学思想を正しく理解するならば、キリスト論から

人間学へと向かうべきではないかと考える。

Y. Congar, *Ibid.* p.320. “deux observateurs orthodoxes...me dirent: «Si nous devons proposer un *De Ecclesia*, nous rédigerions ...un second d'anthropologie chrétienne...» ”

キリスト論から教会論への方向性（それは西方キリスト教がたどった方向といえよう）は、教会の正統性のためには必要であったであろう。しかし、キリスト論からキリスト教的人間学、そこから生まれる宣教論に対して、キリスト論から教会論へと至り、そこから発展した宣教論は狭小なものになりはしまいか。

²³ この点については、たとえば宗教や教派の違いを越えて、人権の根拠を見出し共有されねばならない、火急の世界情勢がある。日本カトリック大学キリスト教文化研究所連絡協議会編『キリスト教と人権思想』（サンパウロ 2008 年）参照。

第二バチカン公会議は、その最後の文書である『現代世界憲章』の中で、次のように人間は内在的超越の方向で神に出会うことを述べている。

人間はその内面性によって事物の世界を超越している。……心を探る神はそこで人間を待ち、人間は神のまなざしのもとで自らの行方を定める。したがって、自分の中に霊的な不滅の靈魂を認めるとき、……実在の深い真理そのものに達するのである。²⁴

良心は人間のもっとも秘められた中心であり聖所であって、そこで人間は独り神とともにあり、神の声が人間の内奥で響く。²⁵

その復活によって主として立てられ、天と地のいっさいの権能を授かったキリストは、その霊の力をもって人々の心においてすでに働いている。²⁶

この箇所、K. ラーナーの「無名のキリスト者」の考えの影響をみることができる。モルトマンは、内容的にはより乏しいキリストの人格の構成であると批判しながら、この思想が後期ラーナーに見出されると言う。

ラーナーは、人間の内的自己超越に、ある種の「隠れた」ないしは「求道的キリスト論」を見出しているか、それを仮定している。……彼は、そこで「匿名のキリスト者」について語ることができる。自分で意識していようとまいと、自己の本質およびその真の本質実現に到達した人間は、「キリスト者」なのである、と。……人間は真の自己肯定において、神による肯定の恵みをすでに受け入れている。したがって、ラーナーにとっては、……人間存在は、匿名のキリスト者存在でもありうるのである。²⁷

ラーナーのキリスト論から導かれるこうした考えは、現実の人間存在の実存規定をとおして、キリストおよび神がどの位置に考えられねばならないかという下からのキリスト論に対し、逆の方向性を帯びている。結果、人間存在の秘義的側面を補足しているといえよう。

現代カトリック神学では、カトリック教会を通してのキリスト者への聖霊とその働きが言われるものの、その及ぶ範囲を前提的には考えない。これは当然のことであって、神および神の働きについて人間が規定して制約することは矛盾する。「風 (πνεῦμα 霊) は思いのままに吹く」(ヨハネ 3.8) ののである。

こうしたことから、内在する神と人間との関係については思想として哲学的に様々に考えられてきた。福田勤は『マウルス・ハインリッヒ講義集』の最終巻(『恩恵と信仰—恩恵論』)の最後に、また啓示論に関して第2巻(『キリスト教神学への道』)において、内在的超越の方向の恩恵論(および啓示論)の比較として、滝沢克己、八木誠一、および正統的なキリスト教理解の比較をしている²⁸。

福田によると、滝沢も八木も正統的神学の姿勢に対する批判として「神の概念を、あまりに対象論的・客観的存在としてとらえ、その対象のみを云々する理論は、決して真の神を表現するものではない」とする²⁹。しかし滝沢も八木も、神と人との「第一義的接触(原関係)」が、イエスの場合と、他のすべての人間とで共通にみており、イエス・キリストの受肉の意味が弱められている点で正統的神学とは区別されねばならない。

その点では、小野寺功のように正教会神学の否定神学を積極的に評価し内在的超越として

²⁴ 現代世界憲章 14 項。

²⁵ 現代世界憲章 16 項。

²⁶ 現代世界憲章 38 項。

²⁷ J. モルトマン、前掲書、110-111 頁。

²⁸ 福田勤編著『恩恵と信仰：恩恵論(マウルス・ハインリッヒ講義集(VI) 現代日本におけるキリスト者

の基本的神学)』(中央出版社、1976年) 230-262 頁(比較図は 253-255 頁)。および、『キリスト教神学への道(マウルス・ハインリッヒ講義集(II) 現代日本におけるキリスト者の基本的神学)』(中央出版社、1971年) 213-269 頁。

²⁹ 前掲、福田勤編著『恩恵と信仰：恩恵論』 248 頁。

の神を確保しようとする路線は、確かにキリスト教教義の確立の時代的思想的背景に立ち戻ろうとする点で優れている。

小野寺の場合は「超越的内在の方向からの呼びかけをも含む『啓示』を出発点とするキリスト教神学と、内在的超越の方向からの呼びかけを自覚する場で展開される西田哲学の橋渡しを、東方教会の神学に求めている。……キリストの名を意識していない人も『体験の場』の現実においては『キリストの霊』に生かされている」(下線は引用者による)³⁰。このようにラーナーとは異なる視点から非キリスト者への「内在するキリスト」の積極的関与を述べる。

さらに小野寺は『聖霊の神学』³¹において福田も評価する「日本の聖霊論」を展開し、小田垣雅也の「第三項の神学」との類似性を自ら指摘しながら³²、西田哲学に触発された自身の思想の由来と解説を提示する。

ただし、彼によるところの聖霊の神学から導かれるものが聖霊に関連する全体が網羅されているわけではなく、その意味では神の救いの営み(オイコノミア)について十分に説明されているとは言えず、またその叙述の全体からキリスト教的人間学の体系を見出すのは困難である。しかし内在的超越の方向でキリスト教の正統神学を位置付けようとしている点で評価されている。それは、「すでにわたしたち人間の霊のなかに神の霊が『共にある』ということが前提になっている」(下線は引用者による)³³ことが出発点になっている。

これが現代多くの神学者に既に受け入れられ、第二バチカン公会議の諸文書にその考えがみられることは、既にみたとおりである。

ただし、個々人に内在する者を聖霊と同定す

ること自体は正しい反面で、神と人との人格的交わりという側面が現代のキリスト教的状況においては意識されにくくなってしまう。というのも、特に西方キリスト教において聖霊をペルソナ的存在としてよりも非ペルソナ的働きの方向にイメージされる傾向があるからである。また聖霊はキリストと同じく自己無化([G]κένωσις ケノーシス)しつつ、キリストとは異なり自己のペルソナを開示しない。だからこそ人間が、「キリストの霊」とも呼ばれる聖霊を受けることによって、人間はキリストの内住を受けることになる³⁴。これは三位一体における相互内在([G]περιχώρησις ペリコーレーシス)の考えにも合致する。

また新約のさまざまな箇所においてパウロは、〈個〉としての自身の証言を残すが、その一つとして、自分のいのちにおいて(自己の内に)自分とキリストが共に死に共に生きると述べる。

「わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。」(ガラテヤ 2. 19b-20)

自分とキリストが一つのいのちにおいて共存するという内在のキリストについてのパウロをはじめとする証言や言明は、単に靈性について語る際の表現上のことに過ぎないのであるか。それとも、洗礼を受けたか否かを問わず存在論的にあらゆる人間に対して考える可能性を有するのであるか。

³⁰ 前掲、福田勤編著『恩恵と信仰：恩恵論』258頁。

³¹ 小野寺功『聖霊の神学』(春風社、2002年)

³² 前掲書、203-216頁。

³³ 前掲書、208頁。

³⁴ 「神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなたがたは、肉ではなく霊の支配下にいます。キリ

ストの霊を持たない者は、キリストに属していません。」(ローマ 8.9)

「預言者たちは、自分たちの内におられるキリストの霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光についてあらかじめ証しされた際、それがだれを、あるいは、どの時期を指すのか調べたのです。」(1ペトロ 1.11)

いずれにしても、多くはキリスト者と復活のキリストとの出会い(たとえばパウロにおいては使徒9.1-9にみられる)の証言無しには考えられない。歴史の各時代において生きた個々のキリスト者・修道者・神学者らの証言の蓄積が、靈的識別や祈りを伴う省察を経て、救いの営み(オイコノミア)の内に現実に潜む神秘を明らかにしていく。それはまた真の人であり真の神であるキリスト、同時に神性と人性とがイエス・キリストという一つの〈個〉hypostasis, [G] ὑπόστασιςにおいて結合した(このような哲学的な見方を別の方向からみれば「神と人がともに永遠に出会い続ける」)キリスト論がかかわる。

こうした神性と人性の結合として定義されてきたキリスト論と関連して、東方キリスト教の神化([G] Θεωσις テオーシス)という教義が、度々引用され、それとともに、〈個〉としての人間に内在するキリストについても議論されている。

このようにキリスト教的人間学は、啓示による超越的な神からの呼びかけに対する応答に基づいた教義学の超越的方向よりも、人間学の一つとしては、むしろ必然的に内在的超越の方向の理解に重点がおかれる。そこで、内在のキリストに関連する議論を確認した上で、内在するキリストについて一つのテーゼを導き、それに基づいて最後にはキリスト教的人間学に関わる諸領域を素描してみようと思う。

3-2. 『〈個〉の誕生』

教理史からみれば妥協の産物であったとしてもカルケドン公会議の決議は、キリスト教の正統派(あるいは主流派)とそれ以外とを今日

まで区別する役割をはたしてきた。坂口ふみ氏の『〈個〉の誕生：キリスト教教理をつくった人びと』³⁵は、単にキリスト教なるものを生み出した「キリスト教教理をつくった人々」の議論の追尾ではなく、またキリスト論の単なる思想史的解説でもない³⁶。

キリストという〈個〉において「真の神性と、真の人性(二つのピュシス φύσεις<[G] φύσις)とが、混合・変化・分割・分離することなく一致している」という決議の意味を綿密に描き出す。〈個〉をめぐる坂口の追究は、キリストと「一つ」となる、〈個〉としての人間存在の追究であった。

キリストにおける神人の結合は、自然本性によるものではけっしてない。それどころか、自然本性には真向から反する結合である。超自然であり、神秘であり、恩寵であるといわれるのはそのためである。

神本性と人本性がおのずから結合するものでないことは、一なる神の実体がおのずから三であるはずもないのと同様で、これらの出来事は徹頭徹尾不自然であり、逆理である。

そのとき、ある「不自然な」強力な結合原理(キリスト論では)ないし区別原理(三位一体論では)が必要とされることは当然であろう。³⁷

坂口は、その一方で結合原理、他方で区別原理として働いたものがヒュポスタシス=ペルソナであるとして、その後の正統派のなかの議論(新カルケドン主義)を、「ビザンチウム」および「エルサレム」の2名のレオンティウスのhypostasis論を精査することに応用している³⁸。これらの詳細な追尾ののちに、坂口は以下

³⁵ 坂口ふみ『〈個〉の誕生：キリスト教教理をつくった人びと』(岩波書店、1996年)

³⁶ この著者、坂口氏自身に沿ってあえて言えば、この書はヨーロッパの心性をかかえた亡き友人という〈個〉をめぐる書かれた、というべきであろう。

³⁷ 坂口ふみ、前掲書、235頁。

³⁸ 前掲書、242-244頁。前者は、「ヒュポスタシスをもたぬピュシスは存在しない」という基本的な存在論的確信を、互いに正反対にみえるネストリウス派もエウテュケウス派も共有していたことから、「ピュシスとヒュポスタシスは不可分一体である」という公式を導いて、正統キリスト教教理の成立を遅らせた

のように述べる。

(受肉のロゴスのヒュポスタシスは) あらゆるヒュポスタシス—ペルソナの範型であり、キリスト存在の類比者として語られる人間存在にも弱められたかたちで似姿的に存在するわけである。それゆえ、人間の心と身体を集めるヒュポスタシス=ペルソナも、同様に『総合されたヒュポスタシス』と呼ばれる。……キリストと人間のアナロジーは、常に意識されている。キリストのペルソナ=ヒュポスタシスと人間のそれとは、極めて親近なもの、前者が後者のより完全な形とみなされていることは疑いない。キリストの構造を語りつつ、彼らはいつも同時に『隣人』の構造をも語っているのである。³⁹ (下線は引用者による。)

ここでは直接的に内在するキリストについてではなく、人間のペルソナ=ヒュポスタシスとしてのあり方について論じているが、前項までの議論でほのめかされていた「人と共にある神」の範型が、「真の神であり真の人」のキリスト両性論で示されている。

つまり〈個〉としての人間と、その内奥に内在するキリストとが、一つの存在であることをどう理解できるか、また内在するキリストの意志と、人間の意志とが、現実においてどのように関わりあうのか(キリスト論における単意論反駁、両意論に対応する)、人間は自己に内在するキリストにどのように向かい合うことができるか⁴⁰、等の考察の基礎となることが暗示されている。

坂口氏のこの論究では、理性に人間存在の根拠をおき人間に超越者の関与を一切認めない

近代およびその後継である現代的な人間観を、すでに凌駕して、文字通り他者へと開かれた〈個〉としての人間存在を明らかにする、本来的なキリスト教的人間観が、実証的に示されている点で重要である。

3-3. モルトマン

「モルトマン神学の特徴と魅力は……神の世界における内在(シェキナー)の経験の場の広まりと深まりの理解にある」⁴¹。すでにみたようにモルトマンにおいては、人間とともに苦しむ神を、キリスト論に基づいて考えていた。一般的には経験的に個のレベルの事とみなされている苦しみは、十字架と復活を核心にもつキリスト教においては共有・連帯の可能性に開かれたものとみなされていることはいまでもない。『今日キリストは私たちにとって何者か』において、神、キリストおよび我々人間の苦しみの連帯についてモルトマンは次のように述べている。

神が子なるキリストにしていますならば、キリストの苦しみは神の苦しみであり、神もキリスト教の十字架で死を経験される。……神は共に歩み共に苦しむ。……

私たちの苦しみにおいて私たちのもとに いまし、私たちと共に私たちの痛み において いますためである。すなわち、私との神の 連帯性である。……

キリストの苦しみは、もっぱらキリストの苦しみではなく、私たちの苦しみと現代の苦しみを含んでいる。キリストの十字架は、神御自身が私たちの苦しみを分かち合い痛みを引き受けて下さるしるしとして…

原因であると分析したことを、坂口は読み取る。そこから、「ビザンティウム」のレオンティオスはエンヒュポスタトン(ἐνυπόστατον)概念(ヒュポスタシスの内なるもの)を導入する。

³⁹ 前掲書、260頁。

⁴⁰ この書で著者は、書題にあるようにキリスト教教理(おもにキリスト論)における〈個〉について追究し

ているが、キリストという個の存在における愛がおそらく隠れたテーマなのであろう。それは『信の構造:キリスト教の愛の教理とそのゆえ』(岩波書店、2008年)の副題からもその中身からもうかがわれる。

⁴¹ 沖野政弘「あとがき」モルトマン著、沖野政弘訳、『今日キリストは私たちにとって何者か』(新教出版社、1996年)175頁。

…私たちの十字架の間に立っている。⁴² (傍点ママ、下線は引用者による.)
モルトマンは同書において、イエスの十字架から復活へ至る道筋の順に考察を重ね、キリストの復活によって歴史に決定的変化をもたらしたことを述べる。

「キリストの復活は、世界史を〔終末的〕歴史の終りにし、歴史の経験の場所を新しい待望の地平の中へおく。」⁴³

このキリストの復活が「何のためであったのか」ということの一つを、パウロは、第1コリント15章で「キリストによってすべての人が生かされること」(22節)と言い、自らも、内在するキリストを証ししていた(ガラテヤ2.20)。

「歴史を復活の展望の中で見るとは、御霊にあって復活のプロセスに参加することを意味する。復活を信ずるとは、一つの教理に同意したり、一つの史的事実を認知することにつかない。むしろ神のこの創造者の行為にあずかることである。」⁴⁴

「パウロは、キリストのよみがえりの完了形を、御霊の内住の現在形と結びつけ、御霊の現在形を死人の復活の未来形と結びつけている。キリストのよみがえりの完了形は、したがって過ぎ去った出来事を表さないで、むしろ、そこでいのちの将来が切り開かれたゆえに、御霊において現在を規定するよう働きかける過去の出来事となるのである」⁴⁵

「キリストは、ただ単に……代理的に死なただけではなく……「すべて生きとし生けるものの死」を死なれたのである」⁴⁶

したがって、この復活のキリストが個々の人間に内在して歴史を生きること、それ自体がこの世界の変容の営みとなる。

神の救いの営み(オイコノミア)は、したがって人間がひたすら全能の神の働きに期待することではなく、ましてマックス・ヴェーバーが言うような、人間が自分の力の至らなさを感じながら仕方なく弱々しく無力感の中で虚しく働く中で示されるのでもない。

「内在するキリスト」と共に歩む、そうした一人ひとりのいのちをとおして、三位一体の神は終末的完成へ向けて歩む。人間はその壮大な事業の完成へ向けた *missio Dei* の使命を、神とともに生きていく、という道筋を、モルトマンは『組織神学論叢』のキリスト論の全体に構成している⁴⁷。

4. まとめと課題

キリスト者の神秘体験というカテゴリに密閉されたかのような、内在するキリストという理解は、しかしキリスト教教義の面からみても不可視の現実、しかもすべての人間に開かれた不可視の現実である。

その根拠の一つは、旧約聖書においては創世記の創造物語で人間について「神の像」と表現され、歴史のある一点において十字架の死と復活によって示されたキリストの人性にある。これはすべての人間は、人間としての本性を有するゆえに、「真の神、真の人」キリストと存在論的に深く結びついていることである。

ただし、ペルソナあるいはヒュポスタシスと

⁴² 前掲書、49-51頁。

⁴³ 前掲書、102頁。

⁴⁴ J.Moltmann, *Der Weg Jesu Christi -Christologie in messianischen Dimension*. Beiträge zur systematischen Theologie Band3, München,1989:〔邦訳〕蓮見和男訳『イエス・キリストの道——メシア的次元におけるキリスト論』

J.モルトマン組織神学論叢3(新教出版社1992年)376頁。

⁴⁵ 前掲書、377頁。

⁴⁶ 前掲書、397頁。

⁴⁷ この書の後半の各章では、「キリストの終末論的復活」「宇宙的キリスト」を扱っている。

しての内在于キリストとの出会いの関わり合いは、同じくペルソナあるいはヒュポスタシスとしての個々の人間にとって自由な意志によるのであり、拒否・否定することさえ可能である、という現実がともなう。その自由な意志こそ、他の人間にはみえない一方で、人格的行為の基底となるものでもある。本人の人格の真の姿は、神と隣人といった絶対的他者および相対的他者との関わりの中で露わにされる。

しかし個々人の内奥におけるその出会いを導いてくれるものは何か。それは個々人が自身を一人格的存在として、自分自身であることの獲得をめざし自己実現を求めていく歩みのなかに隠れているであろう。

ただし、その時々本人の経験、特に苦しみの体験において、共に苦しむ“何者か”に救いを求めることが、「匿名のキリスト者」へつながる可能性がある。とすれば、その場合、神学的には明言できないが、キリスト教的人間学の視点からすれば、不可視の「内在于キリスト」は、その時々経験を、ともに経験していると考えうる。あるいは、個々人のいのちを、内在于キリストがともに生きている、とも言い得るであろう。

とするならば、この世界を同時性において捉えた場合、どこかに生きる苦しむ者と共に、内在于キリストが共に苦しんでいる、とも考えうる。

紛争の絶えない世界の中で、理不尽に殺される人々の一人ひとりのうちにキリストが内在しているとするならば、パレスチナ人を殺すイスラエル人は自分たちが待望するメシアを自らの手で殺していることになり、プーチンは教会で自ら祈っている神を、自分自ら殺してきたことになる。

神の救いの経綸を歴史という観点でみた場合に救済史（[L] *historia salutis*）が記述されるが、これは60年前の第二バチカン公会議の神学的特徴の一つであり、他の一つは過越秘義

（[L] *mysterium paschale*）すなわち十字架の死を過ぎ越して復活に至る現実の中に含まれている神の神秘である。キリストの復活は、あらゆる時代の人間の存在意義すら決定することになる。

ここに本論考で引用を多くしたモルトマンの生態学的神学（[D] *Ökologische Theologie*）の考察が必要となろう。それはすなわち、教皇フランシスコが『ラウダート・シ』あるいは『ラウダーテ・デウム』で強調した地球環境の危機に対して、個々の人間の意志が自らの在り方を問い返すものとして問われている。

いずれにしても（キリスト者であろうとなかろうと）、個々人の意志が、自分自身のみならず世界中の人々の在り方を規定するという現実の中の神秘がここに存在する。こうした点においても、非キリスト者とキリスト者は同じ運命を担い合っていることになる。

本論考では紙面の関係で扱うことのできなかった、キリストの復活からもたらされた「内在于キリスト」によって拓れるさまざまなキリスト教的人間学的課題が残る。啓示、教会、宣教、典礼、および世界全体が抱える人権問題など、これらは全て個々に「内在于キリスト」の視点から記述し直されたほうがよいと考えらる。

少なくとも、「内在于キリスト」の根本的意義が忘れられた既存のキリスト教入門書よりも、現実との関わり合いの点において、混乱を招くような“神話”を回避できるからである（無論、キリストの復活と内在は、神話ではなく秘義としての現実そのものである）。キリスト者はそれを啓き示す、東方キリスト教的に表現すればキリストのイコニック的存在であったはずである。

【参考文献】(おもなもののみ)

- ・第2バチカン公会議文書公式訳改訂特別委員会監訳『第二バチカン公会議公文書 改訂公式訳』(カトリック中央協議会、2013年)
- ・F.X.Durrwell C.SS.R., *La Résurrection de Jésus, mystère de salut*, Le Puy-Lyon, 1963 [邦訳] F. X. デュルウェル著、及川英子訳『キリストの復活』上智大学神学部編聖書研究叢書XI (南窓社 1975年)
- ・Cardinal Yves Congar, *Je crois l'Esprit Saint*, Cerf, 1995 [邦訳] イヴ・コンガール著、小高毅訳『わたしは聖霊を信じる』1~3 (サンパウロ 1995-1996年)
- ・H. U. フォン・バルタザール著、久里彰訳『過越の神秘』(サンパウロ 2000年)
- ・V. ロースキエ著、宮本久雄訳『キリスト教東方の神秘思想』(勁草書房 1986年)
- ・Denis Edwards, *JESUS AND THE COSMOS*, Paulist Press, Mahwah, 1991 [邦訳] デニス・エドワーズ著、原田英一訳『イエスと宇宙』(中央出版社 1995年)
- ・福田勤編著『恩恵と信仰：恩恵論 (マウルス・ハインリッヒ講義集(VI) 現代日本におけるキリスト者の基本的神学)』(中央出版社 1976年)
- ・福田勤編著『キリスト教神学への道 (マウルス・ハインリッヒ講義集(II) 現代日本におけるキリスト者の基本的神学)』(中央出版社 1971年)
- ・小野寺功『聖霊の神学』(春風社 2002年)
- ・坂口ふみ『〈個〉の誕生：キリスト教教理をつくった人びと』(岩波書店 1996年)
- ・モルトマン著、沖野政弘訳、『今日キリストは私たちにとって何者か』(新教出版社 1996年).
- ・Jürgen Moltmann, *Der Weg Jesu Christi: Christologie in messianischen Dimensionen*. Gütersloher Verlagshaus,

1989 [邦訳] J. モルトマン、蓮見和男訳『イエス・キリストの道：メシア的次元におけるキリスト論』J. モルトマン神学論叢 3 (新教出版社 1992年).

- ・Jürgen Moltmann, *Der Geist Des Lebens: Eine ganzheitliche Pneumatologie*. Gütersloher Verlagshaus, 1991 [邦訳] モルトマン著、蓮見和男・沖野政弘訳、『いのちの御霊：総体的聖霊論』J. モルトマン組織神学論叢 4 (新教出版社、1994年).

* 本資料に記載の聖書の引用箇所は、すべて『聖書 新共同訳』(日本聖書協会)に拠ります。

大学生の食生活実態調査に見られた米離れについて

佐々木 裕子 仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科

はじめに

日本人にとって、「米」はなくてはならない主食と言われている。一汁一菜ブームにおいても、米は定番の「主食」として想定されていた。2024年秋、米の価格が値上がりし、「令和の米不足」として話題となった。米の相対取引価格は昨年11月、3か月連続で最高値を更新し、さらに11月の消費者物価指数では「米類」の上昇幅はこれまでで最大となった。この価格の大幅な値上がりを受けて、外食チェーンの間でメニューの値上げの動きが相次いで行われた。高騰の理由について農林水産省は、生産コストの上昇分を販売価格に転嫁する動きが広がっていることに加えて、この夏、米が品薄になってから集荷業者の間で米を多めに確保しようとする動きが続いているためだとコメントした。

一方、世界では年間約4億8,000万トンもの米が作られている。世界で生産されている米は、ジャポニカ米とインディカ米の大きく2つに分けられる。私たち日本人が食べている米はジャポニカ米で、世界で多く生産・消費されているのはインディカ米である。米国農務省によると、世界の米の生産量は年間約4億8,000万トン（精米ベース）¹⁾。その大半がアジアを中心とした国々で作られている。

また、生産量の第1位は中国の1億4,450

万トンで、全体の30%を占めている。続くインド、インドネシアの上位3カ国だけで、約60%近くにもなる。日本の生産量は、年間781万6,000トンで世界第10位。消費量は796万6,000トンで生産量を上回っているが、1人当たりの消費量は年間55.2キログラムと他のアジア諸国に比べて圧倒的に少なく、年々減少傾向にある。現実には、1962年度に年間1人当たりの消費量がピークを記録して以来、米の消費量は減り続けている。この問題は長年くり返し報道され、議論されてきたにもかかわらず、その傾向は一向に変わることなく、2016年度には1962年度の約半分、約54キロにまで減少している。

日本では、その土地の土や水、気候に合わせて、さまざまな種類の米が生産されている。どこでどんな品種を作っているのか、米の収穫量と作付上位品種を図表に示す。

このように様々な種類の米が地域で生産されているにも関わらず、農林水産省が発表した令和6年度の国内生産量は、7,911トンとなり、国民1人・1年当たり供給純食料はついて51.1kgと益々低下傾向が報告された²⁾。なぜ、食事に不可欠なはずの米の消費量は、減り続けているのだろうか。

そこで、大学生の食生活実態調査を行い、本当に米を食べる食生活が減って来ているのか、またその背景にあるものはどのよ

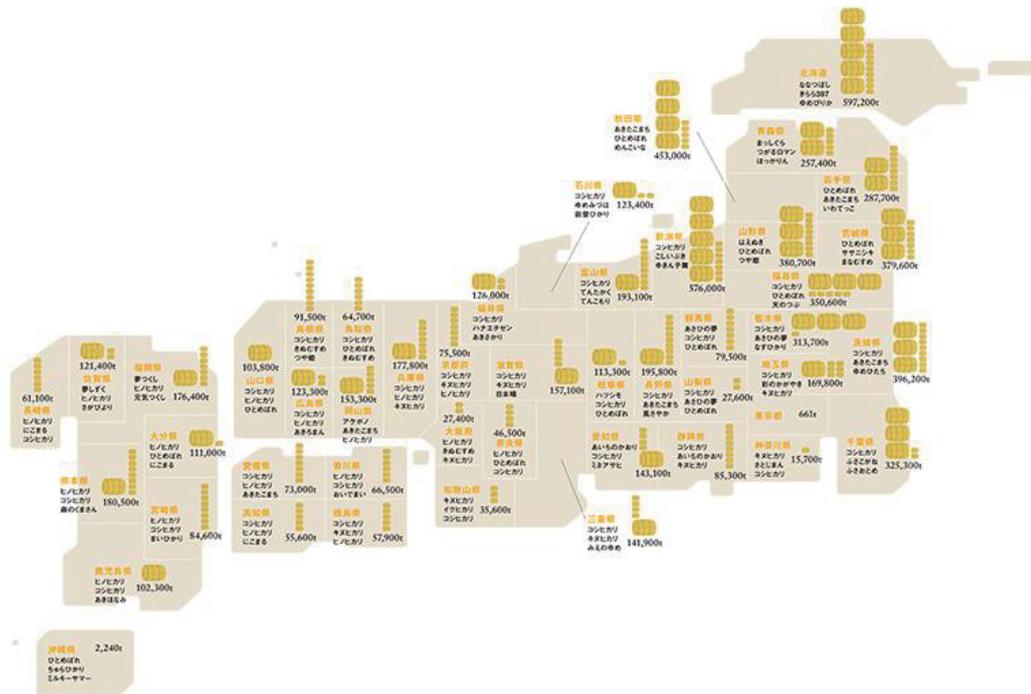


図 1：農林水産省「平成 26 年産水陸稲の収穫量」、米穀安定供給確保支援機構「平成 26 年産 水稻の品種別作付動向について」より引用

表 1：米穀安定供給確保支援機構「平成 26 年産 水稻の品種別作付動向について」より引用

全国の作付割合上位10品種

	品種名	作付割合	主な産地
1位	コシヒカリ	36.4%	新潟県、茨城県、栃木県
2位	ひとめぼれ	9.7%	宮城県、岩手県、福島県
3位	ヒノヒカリ	9.2%	熊本県、大分県、鹿児島県
4位	あきたこまち	7.2%	秋田県、岩手県、茨城県
5位	ななつぼし	3.1%	北海道
6位	はえぬき	2.9%	山形県、香川県、秋田県
7位	キヌヒカリ	2.7%	滋賀県、兵庫県、埼玉県
8位	まっしぐら	2.0%	青森県
9位	あさひの夢	1.6%	栃木県、群馬県
10位	こしいぶき	1.5%	新潟県

うな気持ちや生活スタイルなのかを調べることにした。

対象と方法

仙台の大学生 102 人（男子学生 29 人、女子学生 73 人）に 1 日分の食事を記入してもらい、主食に米を食べている状況を 1

食ごとにカウントした。

さらに、その中でも特にS大学の1年生女子26人に対して、米に対する意識をインタビューし、生活スタイルとの関連などを調べることにした。

結果

食事調査では、3食ともご飯(米)を食べている人は、24%、2食の人は30%、1食の人は30%、ご飯(米)食べなかった人が16%いた。(図2)0回と1回/1日を合わせると、約半数になった。

また、男女別に見ても、米を食べる割合に、大きな差はなかった。(図3)

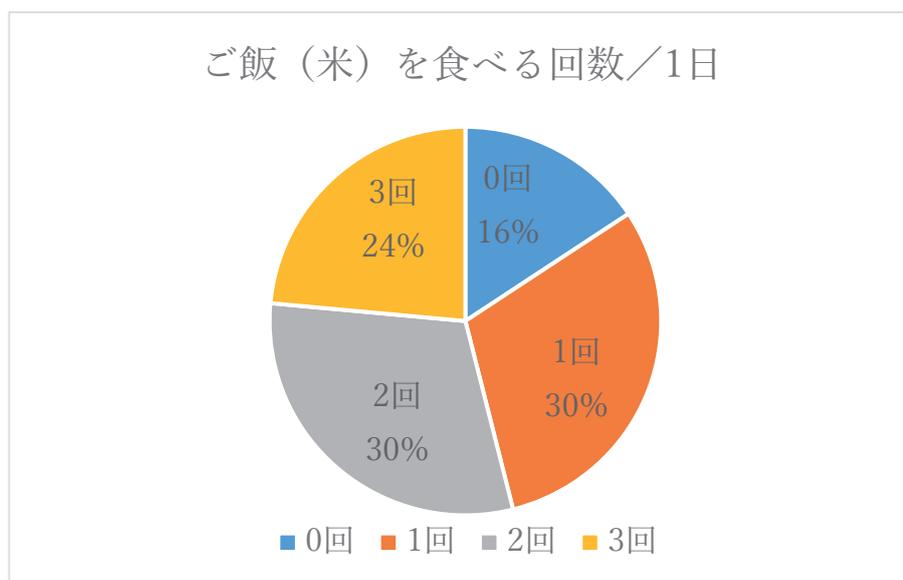


図2：1日当たり、ご飯(米)を食べる回数

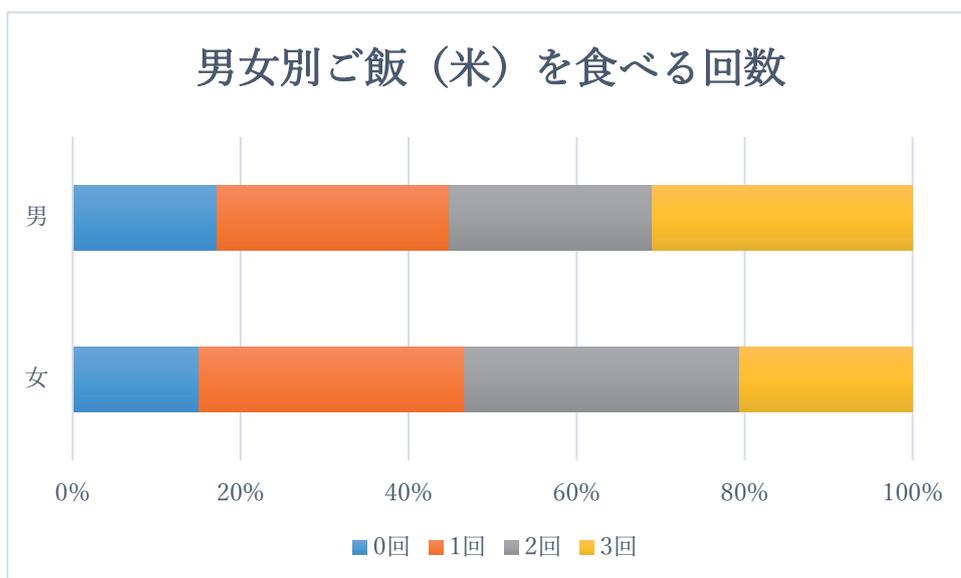


図3：男女別に見たご飯を食べる回数

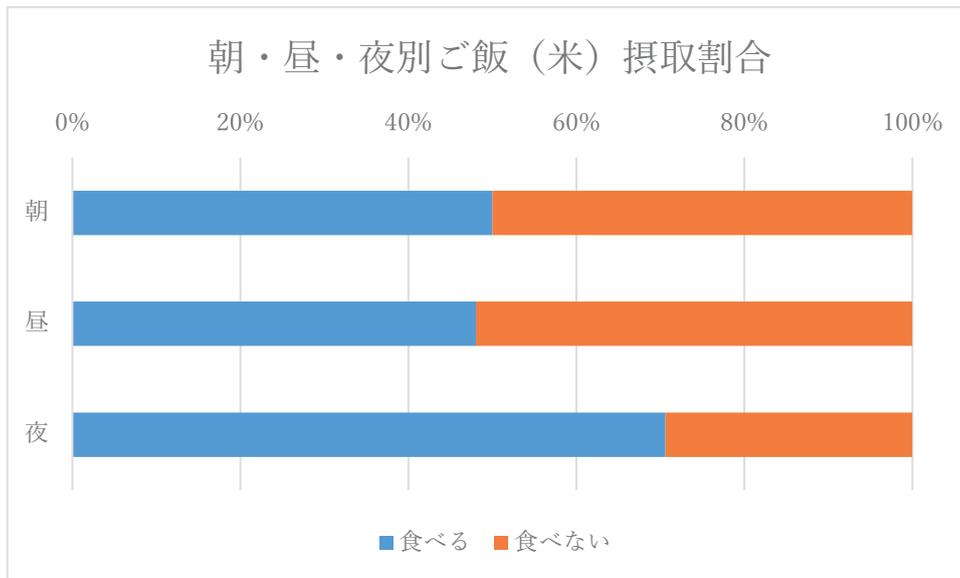


図4：朝・昼・夜別のご飯（米）摂取割合

さらに、朝・昼・夜別にみると、朝と昼に米を食べない割合が夜よりも多かった。

(図4)

米を食べない理由について、インタビューした所、

1. 1人分を調理するのは面倒くさい。
 2. 米を調理するには時間がかかる。
 3. 米は太るので食べないようにしている。
 4. 米は価格が高い
- という結果であった。

考察

1. 「1人分を調理するのは面倒くさい」について

その原因としては、「食生活の多様化によって主食の選択肢が増え、相対的に米の割合が減った」ことと、「女性の社会進出が進み、外食・中食に頼る傾向が強くなった」などが考えられる。しかし、学生の食卓はもう少し事情が複雑である。1人暮らしの女性の場合、「最近炊いて冷凍しておき、食べることもあるけれど、基本的に米はあ

まり食べない。年に数回ぐらいしか炊かないときもあった」と話した学生もいた。

夜は友人たちと外食をしたり、アルバイト先で賄い食を食べたり、昼は弁当を作って持っていくか、外で買ってきて学内で食べる。朝も、コーヒーとクロワッサン程度の簡単なもので済ませる。よく作るのはパスタであった。「パスタは簡単なので、ついそれでやっちゃう」という回答もあった。

このように、少人数世帯の人にとって、米を炊くのは効率が悪いことかもしれない。最近味の良さを売りにする炊飯器が数多く出ているが、1合未満の1人分の米を炊ける商品はあまり見当たらない。

2. 「米を調理するには時間がかかる」について

米のご飯をつくる調理は、時間を要する。通常米は、洗って吸水させるまでで30分～1時間、炊いて蒸らすのに40分～1時間程度。最大で2時間かかる。無洗米を吸水させないで使う、圧力鍋などを使うなど工

夫すれば時間短縮が可能だが、それでも 30 分～1 時間はかかる。

忙しい現代は時短料理がもてはやされ、10～30 分で食事の支度をする人が少なくない時代に、米の調理時間の長さや少量調理の難しさは、学生といえども大きなネックになっているのではないか。その点、パスタやうどんなどの麺類は 1～2 人分だけ用意することがたやすく、手早く調理できる。パスタソースに肉や野菜を入れる、うどんの具材として肉や野菜を入れるといった工夫をすれば、1 品で食事が整う。パンなら主食を調理する必要すらない。

3. 「米は太るので食べないようにしている」について

主菜のメインディッシュだけで食事を済ませる人もいた。学生によっては自宅が遠方で、帰宅が 20 時、21 時になるときでも作って食べる。「コンビニで買ったときもあるけれど、1 人で食べるのが虚しくなって」作るようになった。また、自宅でも家族が用意した食事はあるが、夜は米を食べると太る気がするため、メインのおかずだけあるいは副菜だけ食べるようにしている人もいた。実際、ご飯を食べるとカロリーがとても高くなりますと話しており、ご飯（米）は大好きなのですが、授業で座っている事が多く運動量が少ないので、ご飯を食べると太りやすくなる気がしますという声も聞かれた。低糖質ダイエットによるエネルギー摂取不足も心配である。

このように、米離れは特に若い世代で顕著である。農林水産省が過去に行った食生活調査³⁾では、20 代男性の約 2 割が 1 カ

月間、米を食べなかったことが判明している。全国の 20～69 歳の男女のうち、1 カ月の調査期間に最も米のご飯をよく食べていたのは 60 代で、男性が 96.3%、女性が 97.1%と、ほぼ全員。一方、20 代男性は 81.6%で女性は 91.5%。男性では 2 割が、女性は 1 割が米を食べていない。

国民健康栄養調査結果の推移では、1962 年（昭和 37 年）の米の摂取量は 1 人 1 日当たり 324 グラムだったが、年々摂取量が減少し、約 140 グラムに減少してしまった⁴⁾と公表された。私たちの食生活は豊かになった半面、食生活の洋風化や簡素化が急速に進行し、動物性食品や砂糖の摂取量が増加している現状である⁵⁾。

米の消費量が減り続けているのは、想像以上に食の多様化が進んでいるからではないだろうか。今や、食の選択肢は主食以外でも広がっているのである。

さらに、特筆すべきは健康管理のうえで、米があまり必要ないと判断する人も少なくない。米を食べなくても、物足りないと思わない日本人が増えていることがうかがえる。糖質制限ダイエットや炭水化物抜きダイエットが流行るのも、食の誘惑や付き合いが多く、積極的にカロリー制限が必要と感じる人が多い時代の必然なのかもしれない。

日本人は今、人類史上まれに見る食料が満たされた時代を生きている。外食や中食の選択肢も豊富だ。食材はつねにスーパーなどの店にあふれている。インターネットその他の宅配サービスで、食材や食事を買うこともできる。多様な食事の中から、米以外の食べものから栄養を摂ることが容易になっているといえる。

参考文献

- 1) 食料需給表令和5年度. 令和6年8月, 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室
- 2) 米国農務省「PS&D」(10 November 2015、2014/15年の数値〈見込値を含む〉)
- 3) 食育に関する意識調査, 農林水産省,平成27年5月:我が国の食生活の現状と食育の推進について
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/pdf/genjyo_kadai6.pdf
- 4) 農林水産省「米の消費動向に関する調査の結果概要」(令和2年3月)
<https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokuryo/200331/attach/pdf/index-14.pdf>
(PDF477KB)
- 5) 令和4年国民健康・栄養調査結果の概要,令和4年,厚生労働省

研究助成報告書

エクオール産生菌と若年女性の過敏性腸症候群との関連性に関する研究

相澤 恵美子 仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科

研究期間

2024年度～2027年度（4年計画の1年目）

研究目的

本研究は、過敏性腸症候群（IBS）を有する若年女性におけるエクオール産生菌の存在状況とIBS症状との関連性を解明することを目的としている。特に月経周期におけるIBS症状の変化に着目し、エクオール産生菌の有無や活性状態が症状に与える影響について、包括的な検証を行うものである。近年、IBSによる特別配慮申請が本学において増加傾向にあることから、本研究の社会的意義は大きいと考えられる。

研究進捗状況

2024年10月～2025年1月

被験者リクルートおよびデータ収集状況

本研究は2024年10月より開始し、初年度の目標被験者数9名に対して、現在までに9名の被験者確保に成功している。被験者の選定においては、研究申請時に設定した包含基準および除外基準を厳密に適用し、研究の質的担保に努めている。全被験者に対して詳細な研究説明を実施し、インフォームドコンセントを適切に取得している。尚、本研究は仙台白百合女子大学倫理委員会の審査と承認を得ている。

データ収集においては、エクオール産生菌の検査および複数の心理指標の測定を実施している。エクオール産生菌検査では、「マイキンソー」を使用し、ビフィズス菌、乳酸産生菌、酪酸産生菌、エクオール産生菌の定量的評価を行っている。また、腸内細菌叢の多様性についても詳細な分析を依頼している。

心理指標の評価では、IBS診断基準

（ROMEⅢ）を基本として、以下の複数の尺度を用いた包括的評価を実施している。鬱病自己評価尺度（CES-D）、状態—特性不安尺度（STAI）によるメンタルヘルスの評価、ホプキンスストレス症状チェックリスト（HSCL）によるストレス評価、さらに消化器自覚症状評価（GSRs）による症状評価を実施している。加えて、食物摂取頻度調査（FFQ NEXT）Web版を用いて、詳細な食事摂取状況の把握を行っている。

データ解析の進捗状況

現在データを収集し、腸内細菌及びエクオールの活性状況について各解析会社へデータの解析依頼中である。しかし予備的解析において、エクオール産生菌の保有状況と活性度について、興味深い傾向が見られ始めている。特に、月経周期とIBS症状の変動パターンにおいて、エクオール産生菌の活性度との関連性を示唆する初期的な知見

が得られつつある。これらの結果は、今後の研究方向性を検討する上で重要な示唆を与えるものである。

また、著者らの類似先行研究において心理指標と消化器症状の相関分析においては、ストレス状態と IBS 症状の増悪に一定の関連性が見られており、エクオール産生菌の存在がこれらの関係性に及ぼす影響について、今回マイキンソーの Data も含めたさらなる詳細な分析が可能となるため核心により迫ることに期待を寄せている。食事摂取状況との関連性については、特に大豆製品のダイゼインの摂取頻度とエクオール産生菌の活性度との関係性に注目して分析を進める予定でいる。

研究費執行状況

研究費の執行については、計画に従って適切に実施している。現在までにエクオール検査費用として 178,200 円（9 名分）を執行し、エクオール活性状況の解析費用として 14300 円を使用している。残額の 2487 円については、検査に伴う消耗品費用として使用している。予算執行率は約 100%であり、年度計画に沿った適切な執行状況となっている。

今後の展望と課題

本年度残りの期間においては、以下の課題に取り組む予定である。まず、収集したデータの解析フォーマットを確立し、次年度以降の追加データ収集に向けた基盤を整備する。

解析手法については、エクオール産生菌の定量データと各種心理指標との分析手法を確立し、より詳細な統計解析手法の選定を

進める。また、データの可視化手法についても検討を重ね、研究成果の効果的な提示方法を確立する。

さらに、測定手順の標準化とデータ入力フォーマットの統一化を進め、次年度以降のデータ収集の効率化と質的向上を図る予定である。特に、エクオール産生菌の活性評価における測定条件の統一性確保に重点を置き、データの信頼性向上に努める。

初年度の目標であるデータ収集と解析フォーマットの確立は、おおむね計画通りに進捗している。収集したデータの予備的分析からは、エクオール産生菌と IBS 症状との関連性について、興味深い知見が得られつつある。これらの結果を基に、次年度以降の追加データ収集に向けた改善点を明確化し、研究の質的向上を図っていく予定である。

研究助成報告書

糖尿病性腎症におけるサルコペニアと栄養の関連

菅原 詩緒理 仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科

はじめに

高齢化に伴い代謝性疾患の発生率や有病率は増加している。2型糖尿病は、世界で約5億人もの患者がおり、今後も数十年にわたり増加し続けると推測されている¹⁾。また、加齢に伴い、体組成は変化し筋肉量の減少と体脂肪量の増加が起こる²⁾。この低筋肉量と体脂肪の増加は、2型糖尿病を含む代謝性疾患の発生率の高さと関連していることが報告されている³⁾。

2型糖尿病は、インスリン抵抗性、炎症、終末糖化産物の蓄積、酸化ストレスの増加を特徴としている⁴⁾。これらの特性は、骨格筋量、筋力、および機能の損失につながり、サルコペニアの発症につながる可能性がある。逆に、サルコペニアにおける筋肉量や機能の低下は、グルコース処理の低下、代謝率や身体活動の低下を招き、2型糖尿病の発症リスクを高める可能性がある。これらのことより、2型糖尿病とサルコペニアの因果関係は未だ解明されていない⁵⁾。サルコペニアは腎症とも双方向の関連があると推測されている。サルコペニアは、慢性腎臓病、特に末期腎臓病でみられる合併症として、筋肉量の減少がある⁶⁾。この原因として、筋肉劣化の増加、筋肉合成の減少、慢性炎症、インスリン抵抗性、筋線維の萎縮がある。これまでeGFRの低下は、インスリン抵抗

性、炎症、酸化ストレス、内皮機能障害と密接に関連しており、これらの因子はサルコペニアの病態生理にも関与していることが報告されており、サルコペニアがeGFRの低下と関連している可能性が示唆されている⁷⁾。

また、2型糖尿病の食事療法は特定の栄養素が糖尿病の管理にかかわることを示すエビデンスがないため、その目安は健常人の平均摂取量に基づいて勘案してよいとされている⁸⁾、一方、糖尿病腎症を含むCKD患者の栄養摂取量は「慢性腎臓病に対する食事療法基準2014版」⁹⁾に記載されている通り、必要十分なエネルギー摂取と適切なたんぱく質および食塩制限とされている。サルコペニアを該当した患者に対する食事療法については、日本腎臓学会の「サルコペニア・フレイルを合併した保存期CKD患者の食事療法の提言が参考となる」¹⁰⁾このため、T2DM患者では個々のステージに合わせて食事療法をおこなっていく必要がある。そこで、本研究は、2型糖尿病における腎障害とサルコペニアと栄養の関連性を検証することを目的とした。

方法

1. 対象者

2023年度の研究助成で行われた後ろ向き研究の2TDMのサルコペニアに対して、

2024年4月～2025年3月までに栄養指導に来院する患者

2. 測定方法

性別、年齢などの人口統計学的特徴、体重、身長、体格指数 (BMI) などの人体計測値、HbA1c、eGFR などの血液検査値を測定した。筋肉量、体脂肪量は生体電気インピーダンス法で評価した。

3. サルコペニアの判定

サルコペニアの判定は Asian Working Group for Sarcopenia [AWGS] の診断基準に基づいて行った。AWGSによると、サルコペニアの診断基準は以下の通りである。

基準 1：骨格筋量の減少

基準 2：筋力低下

基準 3：身体機能低下

基準 1 に加え、基準 2 または基準 3 がある場合サルコペニアと診断される。骨格筋量の減少は二重エネルギー X 線吸収測定 (DIX) 法：男性 7.0kg/m² 未満、女性 5.4kg/m² 未満、生体インピーダンス (BIA) 法：男性 7.0kg/m² 未満、女性 5.7kg/m² 未満とされている。筋力低下は、握力 < 男性 28kg、女性 < 18kg とされている。身体能力低下の基準は、歩行速度 6m 歩行 < 1.0m/sec、または 5 回椅子立ちテスト ≥ 12 秒である。AWGS2019¹¹⁾ の基準値の一覧を表 1 に示す。

表 1. AWGS2019 の基準値一覧

	男	女
下腿周囲径	<34 cm	<33 cm
SARC-F	≥4	
握力	<28 kg	<18 kg
5 回立ち上がりテスト	≥12 sec	
歩行速度	<1.0 m/sec	
SPPB	≥9	
SMI	DXA : <7.0 kg/m ²	DXA : <5.4 kg/m ²
	BIA : <7.0 kg/m ²	BIA : <5.7 kg/m ²

SARC-F: 質問紙 Strength (S: 力の弱さ), Assistance walking (A: 歩行補助具の有無), Rising from a chair (R: 椅子からの立ち上がり), Climbing stairs (C: 階段を登る) Falls (F: 転倒)
SPPB (Short Physical Performance Battery): 身体機能評価バッテリー
SMI : skeletal muscle mass index

本研究では糖尿病患者 103 名のうち 21 名にサルコペニアの判定が行われ、そのうち 19 名にサルコペニアが認められた。なお、本研究は、仙台白百合女子大学倫理委員会の承認を得て実施した。

結果

1. 対象者の特徴

対象者の特徴を table1 に示す。解析対象者は 2 型糖尿病患者である 103 名 (女性 40 名、男性 63 名) である。患者の平均年齢は男女で 65.3 ± 13.5 歳であり、女性は 63.8 ± 14.4 歳、男性は 67.0 ± 14.5 歳であった。平均体重は男女で 65.7 ± 15.3kg であり、女性 59.7 ± 15.3kg、男性 69.1 ± 15.2kg であった。平均 BMI は男女で 25.4 ± 5.0、女性 25.2 ± 5.0、男性 25.7 ± 5.0 であった。筋肉量の平均値は男女で 42.1 ± 8.5、女性 36.3 ± 8.5、男性 46.3 ± 8.4 であった。体脂肪量の平均値は男女で 20.5 ± 9.2、女性 21.2 ± 9.3、男性 20.1 ± 9.3 であった。SMI の平均値は男女で 6.9 ± 1.1、女性 6.2 ± 1.2、男性 7.5 ± 1.2 であった。握力の平均値は男女で 28.1 ± 9.0、女性 21.1 ± 9.0、男性 32.5 ± 9.0 であった。HbA1c の平均値は男女で 7.2 ± 1.2、女性 7.0 ± 1.9、男性 7.5 ± 1.2 であった。

2. 2 型糖尿病患者のうちサルコペニアの有無での群間比較

2 型糖尿病患者のうち、サルコペニアあり群 19 名とサルコペニアなし群 2 名の 2 群比較した結果を Table2 に示す。結果として、サルコペニアあり群となし群では、すべての項目で有意な差は認められなかった。

3. eGFR と各項目の相関関係

サルコペニアの有無に関わらず、2 型糖尿病患者を対象にして eGFR と各項目の相関関係を分析した結果を Table 3 に示す。eGFR と関連が強い変数は年齢 (-0.492、 $p=0.000$) と浮腫率(-0.466、 $p=0.000$)であり、どちらも有意な負の相関が認められた。体重・BMI・筋肉量・体脂肪量・HbA1c は eGFR との有意な相関関係は認められなかった。

考察

本研究は、2 型糖尿病における腎障害とサルコペニアと栄養の関連性を検証することを目的とした。

2 型糖尿病におけるサルコペニアの有無では eGFR 低下と有意な関連性は認められなかった。2 型糖尿病患者を対象にしたこれまでの研究では、サルコペニアが eGFR の低下と有意な関連があることが発見されている。しかし、この解釈には注意が必要であり、eGFR の算出に血清クレアチニン値が用いられている場合、筋肉量の減少が血清クレアチニン値の減少につながった可能性がある。本研究においても、eGFR の算定にクレアチニン値を使用しており、必ずしも eGFR が腎機能低下として反映されるものではないと考えられる。痩せた高齢者で筋肉量が少ないことにより eGFR が高い場合の正確な腎機能評価法として、実測 CCr \times 0.715 あるいはシスタチン C による体表面積未補正 eGFR (mL/min) を用いる方法がある。11)2 型糖尿病患者における、サルコペニアと eGFR との関連については、より正確な腎機能評価法を用いたさらなる研究が必要である。

Table 1. 対象者の特徴

	男女(n=103)		女性(n=40)		男性(n=63)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
年齢	65.3	± 13.5	63.8	± 14.4	67.0	± 14.5
体重	65.7	± 15.3	59.7	± 15.3	69.1	± 15.2
BMI	25.4	± 5.0	25.2	± 5.0	25.7	± 5.0
筋肉量	42.1	± 8.5	36.3	± 8.5	46.3	± 8.4
体脂肪量	20.5	± 9.2	21.2	± 9.3	20.1	± 9.3
SMI	6.9	± 1.1	6.2	± 1.2	7.5	± 1.2
eGFR	68.2	± 24.5	73.7	± 24.3	61.0	± 24.4
握力	28.1	± 9.0	22.1	± 9.0	32.5	± 9.0
HbA1c	7.2	± 1.2	7.0	± 1.9	7.5	± 1.2

Table 2. 2型糖尿病患者におけるサルコペニアの有無での2群間比較

	サルコペニアあり群 (n=19)		サルコペニアなし群(n=2)		p値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
年齢	74.5	± 14.6	69.5	± 18.2	0.4
体重	52.6	± 15.3	57.9	± 19.5	0.61
BMI	21.4	± 5	22	± 6.5	1.00
筋肉量	35.7	± 8.5	37.9	± 8.4	0.533
体脂肪量	14.7	± 9.3	17.7	± 12.6	0.343
HbA1c	7	± 1.2	7.8	± 2.1	0.263
eGFR	59.4	± 24.5	79.5	± 26.9	0.238
浮腫率	0.4	± 0	0.4	± 0	0.114

Table 3. 2型糖尿病患者におけるeGFRと各項目の相関関係

	r値	p値
	eGFR	
年齢	-0.492	0 **
体重	0.051	0.61
BMI	0.059	0.553
筋肉量	-0.042	0.677
体脂肪量	0.105	0.296
HbA1c	0.187	0.062
浮腫率	-0.466	0 **

r値：Spearmanの順位相関係数

また、サルコペニアの有無に関わらず、2 型糖尿病患者を対象に、eGFR との関連を調査した結果、年齢と浮腫率で有意な負の相関関係が認められた。このことから、eGFR 値が低下すると浮腫率が上昇するということがわかった。以前の研究から、2 型糖尿病では、慢性的な高血糖状態により、終末糖化産物(AGEs)の増加、炎症誘発性物質、酸化

ストレスなどにより、微小血管およびマクロ血管合併症などの血管系の損傷が起こりやすいことがわかっている。腎臓の濾過装置である糸球体は細い血管が多い。そのため、2型糖尿病によって傷害が起こりやすく、糸球体濾過量の低下に繋がると考えられる。糸球体濾過量が低下するとNaおよび水の排泄の低下が起こる。Na・水の貯留とそれによる循環血液量の増加により毛細血管静水圧が上昇し、血管内から間質への体液移動が起こる。よって浮腫率の上昇に繋がったと考えられる。今回は、研究期間の途中であり、今後は継続しより詳細な結果を導いていきたい。

引用文献

- 1) IDF Diabetes Atlas: Global, regional and country-level diabetes prevalence estimates for 2021 and projections for 2045
- 2) St-Onge M-P, Gallagher D. Body composition changes with aging: the cause or the result of alterations in metabolic rate and macronutrient oxidation? *Nutrition*. 2010;26(2):152–155. doi: 10.1016/j.nut.2009.07.004
- 3) Hong S, Chang Y, Jung HS, Yun KE, Shin H, Ryu S. Relative muscle mass and the risk of incident type 2 diabetes: a cohort study. *PLoS One*. 2017;12(11):e0188650. doi: 10.1371/journal.pone.0188650
- 4) Advanced glycation end products and oxidative stress in type 2 diabetes mellitus
- 5) Sarcopenia and type 2 diabetes mellitus: a bidirectional relationship.
- 6) Sabatino A, Cuppari L, Stenvinkel P, Lindholm B, Avesani CM. Sarcopenia in chronic kidney disease: what have we learned so far? *J Nephrol* 2021,
- 7) Domański M., Ciechanowski K. Sarcopenia: a major challenge in elderly patients with end-stage renal disease. *Journal of Aging Research*. 2012
- 8) 日本腎臓学会編,慢性腎臓病に対する食事療法基準 2014 版.日腎学会誌 2014 : 56 : (5) : 553-599.
- 9) 日本腎臓学会編,サルコペニア・フレイルを合併した保存期 CKD の食事基準の提言. 日本腎臓学会雑誌 2019 : 61 (5) : 525-556.

- 10) Shafiee G, Keshtkar A, Soltani A, et al, Prevalence of sarcopenia in the world: a systematic review and meta-analysis of general population studies J Diabetes Metab Disord.2017;16:21.
- 11) Asian Working Group for Sarcopenia: 2019 Consensus Update on Sarcopenia Diagnosis and Treatment

人間学研究センター紀要 第2号

発行日 2025年 3月 31日
発行者 仙台白百合女子大学 人間学研究センター
〒981-3107 仙台市泉区本田町 6-1 仙台白百合女子大学
TEL (代) 022-372-3254

ISSN 2760-0513

